
CentreCOM® 1300シリーズ

ファーストイーサネット・メディアコンバータースイッチ

AT-1331-10/80

取扱説明書

CentreCOM 1300 シリーズ
AT-1331-10/80

取扱説明書

安全のために



必ずお守りください



警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。
AT-1331-10はAC100 - 240Vで動作します。
AT-1331-80はDC-48Vで動作します。
なお、AT-1331-10に付属の電源ケーブルは100V用ですのでご注意ください。



[AT-1331-10]

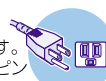


[AT-1331-80]

電圧注意

正しい電源ケーブル・コンセントを使用する

不適切な電源ケーブル・コンセントは火災や感電の原因となります。接地端子付きの3ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの3ピン電源コンセントに接続してください。



[AT-1331-10]



[AT-1331-80]

正しい電源

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たご足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たご足禁止

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを
抜く

電源ケーブルを傷つけない

火災や感電の原因となります。

電源ケーブルやプラグの取扱上の注意：

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものを載せない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・電源ケーブルをコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

光源をのぞきこまない

目に傷害を被る場合があります。

光ファイバーケーブルのコネクタ、ケーブルの断面、製品本体のコネクタなどをのぞきこまないでください。



のぞかない

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度80%以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほごりの多い場所や、シュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクタの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いはいねいに

落としたり、ぶついたり、強いショックを与えないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらすな



中性洗剤
使用



強く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー
類不可

ご注意

本書の中に含まれる情報は、当社(アライドテレシス株式会社)の所有するものであり、当社の同意なしに、全体または一部をコピーまたは転載しないでください。
当社は、予告無く本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。
また、改良のため製品の仕様を予告無く変更することがあります。

Copyright © 2003 アライドテレシス株式会社

商標について

CentreCOMは、アライドテレシス株式会社の登録商標です。

Windows、Windows NTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本マニュアルの中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

マニュアルバージョン

2003年 2月	Rev.A	初版
2003年 5月	Rev.B	仕様変更

はじめに

このたびは、AT-1331-10/AT-1331-80をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本製品は、局側設置用の集合型メディアコンバータスイッチ・シャーシです。EIA規格の19インチラックに設置可能な1.5Uサイズに、2つのアップリンクモジュール(AT-13C3など)と最大12枚のラインカード(AT-13A1など)を装着することができます。AT-13A1はポートを2つ装備しているため、本製品1台で最大24加入者を収容することができます。

本製品は、ローカルコンソールやTelnetを介したリモートコンソールから、本製品に装着されたアップリンクモジュール(AT-13C3など)とラインカード(AT-13A1など)の設定や診断を行うことができます。また本製品は、SNMPエージェントを実装しているため、SNMPマネージャーから各種情報を監視することができます。

本製品には、設定や操作のユーザーインターフェースとして、メニューによるものと、コマンドラインによるものの2種類が用意されています。

本製品のマニュアルについて

本製品には、次に示す3種類のマニュアルが付属しています。

各マニュアルには、以下の内容が記載されています。各マニュアルをよくお読みのうえ、本製品を正しくご使用ください。また、お読みになった後も、製品保証書とともに大切に保管してください。

○ 取扱説明書

本製品の概要、設置と接続、本製品に設定を行うための手順と基本的な操作方法など、本製品を使い始めるにあたっての最低限の情報が記載されています。

○ オペレーションマニュアル(CD-ROM)

各機能の解説、メニューとコマンドの使用方法など、本製品の設定項目に関するすべての情報が記載されています。

○ リリースノート

本製品のファームウェアのバージョンアップにより追加された機能、変更点、注意点や、取扱説明書とオペレーションマニュアルの内容を補足する最新の情報が記載されています。





ファームウェアのバージョンによっては、添付されていない場合もあります。

取扱説明書とオペレーションマニュアルは、本製品のファームウェアバージョン「4.1.0J」をもとに記述されていますが、「4.1.0J」よりも新しいバージョンのファームウェアが搭載された製品に同梱されることがあります。その場合は、必ずリリースノートをお読みください。リリースノートには、重要な情報や、最新の情報が記載されています。


表記について

本書の表記規則を以下に示します。

アイコン

アイコン	意味
 ヒント	知っておいていただきたい点やポイントとなる点を示しています。
 注意	気を付けていただきたい点を示しています。
 警告	人が傷害を負う可能性が想定される内容を示しています。
 参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

書体

書体	意味
Screen displays	画面に表示される文字は、タイプライター体で表します。
User Entry	ユーザーが入力する文字は、太字タイプライターで表します。
	四角枠で囲まれた文字はキーを表します。

製品名の表記・製品図

「本製品」と表記している場合は、特に記載のないかぎり、AT-1331-10およびAT-1331-80を意味します。また、製品図には、特に記載のないかぎり、AT-1331-10を使用しています。

目次

安全のために	4
はじめに	7
本製品のマニュアルについて	8
表記について	9
1 お使いになる前に	13
1.1 梱包内容	14
1.2 特長	15
1.3 各部の名称と働き	17
前面[AT-1331-10/80 共通]	17
背面[上図 AT-1331-10、下図 AT-1331-80]	19
側面[AT-1331-10/80 共通]	20
2 設置と接続	21
2.1 設置	22
設置するときの注意	22
19 インチラックへの取り付け	22
2.2 接続	24
ネットワーク機器を接続する	24
コンソールターミナルを接続する	25
電源ケーブルを接続する	26
3 設定の手順	29
3.1 操作の流れ	30
3.2 設定の準備	31
コンソールターミナルを設定する	31
本製品を起動する	32
3.3 ログインする	33
ログインする	33
ログインパスワードを変更する	35

3.4 設定を始める	36
コマンドの入力と画面	36
オンラインヘルプ	40
コマンドの表記	41
コマンド一覧	42
3.5 設定を保存する	45
設定を保存する	45
設定内容を確認する	47
本製品を再起動する	48
ログアウト時に設定を保存する	49
3.6 基本の設定と操作	51
IPアドレスを設定する	51
Telnetを使用する	54
ファイルをアップロード・ダウンロードする	58
システム名を設定する	65
SNMPによる管理のための設定をする	66
メニュー形式で設定する	70
設定を工場出荷時の状態に戻す	73
3.7 デフォルト設定	75

4 付 録 77

4.1 本製品へのモジュール装着方法	78
ラインカードの装着	78
アップリンクモジュールの装着	80
リダンダント電源モジュール(AT-13E1-10/80)の装着	83
スベアファンモジュール(AT-13F1)の装着	84
4.2 困ったときに	86
セルフテストの結果を確認する	86
LED表示を確認する	86
トラブル例	87
4.3 ハイパーターミナルの設定	89
4.4 Telnetクライアントの設定	92
4.5 仕 様	95
ケーブル仕様	95
電源ケーブル(AT-1331-80用)	96
本製品の仕様	97

5.1 保証とユーザーサポート	100
保証	100
ユーザーサポート	100
5.2 調査依頼書のご記入にあたって	101
使用しているハードウェア・ファームウェアについて	101
お問い合わせ内容について	101
ネットワーク構成について	102
調査依頼書(AT-1331-10/80、AT-13F1)	103

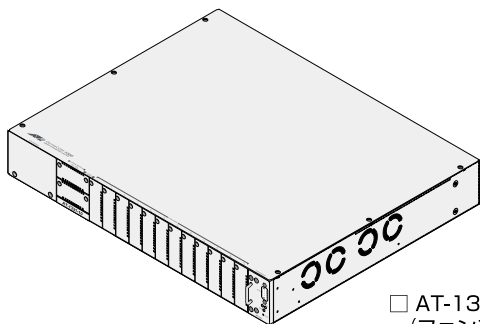
1

お使いになる前に

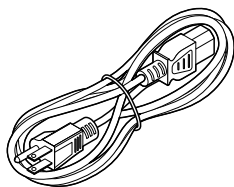
この章では、本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働きについて説明しています。

1.1 梱包内容

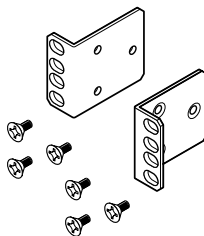
最初に梱包箱の中身を確認してください。



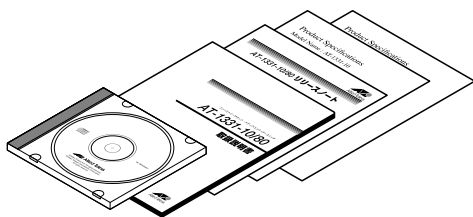
- AT-1331-10/80本体 1台
(ファンモジュールAT-13F1装着済み)



- 電源ケーブル(1.8m) 1本
(AT-1331-10のみ)



- 19インチラックマウントキット 1式
(ブラケット2個、ブラケット用ネジ6個)



- CD-ROM 1枚
- 取扱説明書(本書) 1冊
- リリースノート 1部*
- 製品仕様書(英文) 1枚
- 19インチラック取付説明書(英文) 1枚



- 製品保証書 1枚
- シリアル番号シール(本製品) 2枚
- シリアル番号シール(AT-13F1) 2枚

※ ファームウェアのバージョンによっては、添付されていない場合もあります。

本製品を移送する場合は、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望めます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

! 19インチ・ラックマウントキットを使用して本製品を設置する場合は、シリアル番号シールを本体の見やすいところに貼付してください。

1.2 特長

本製品の主な特長は以下のとおりです。本製品が提供する機能は搭載されているファームウェアのバージョンにより異なる場合があります。詳細については、最新のリリースノートやデータシートをご覧ください。

ハードウェア

- ラインカード(AT-13A1 など)用スロットを 12 個装備
- アップリンクモジュール(AT-13C3 など)用スロットを 2 個装備
- リダンダント電源モジュール(AT-13E1-10/80)用スロットを 1 個装備
- ファンモジュール(AT-13F1)用スロットを 1 個装備
- レイヤー 2 スイッチチップを内蔵(シャシバックプレーン部)
- ホットスワップ機能搭載

マネージメント

- SNMP をサポート
- RMON(1,2,3,9 グループ)をサポート
- TTC 技術仕様(TS-1000)に準拠
- RS-232 経由のコンソールや Telnet から本製品に対する設定が可能
- 2 種類のユーザーインターフェース(コマンドラインとメニュー形式)

スイッチング(CentreCOM 1300 シリーズのモジュール装着時)

- フローコントロール機能搭載(アップリンクモジュールのみ)
- ブロードキャストパケットフィルタリング機能搭載
- エンハンスドミッシングリンク機能搭載
- MAC アドレスフィルタリングによるポートセキュリティー機能搭載
- IGMP(v2)スヌーピング機能搭載
- ポートトラッキング機能搭載
- RRP/VRRP スヌーピング機能搭載
- HOL ブロッキング防止機能搭載
- ポートミラーリング機能搭載

1.2 特長

- IEEE 802.1Q 準拠のタグ VLAN 機能・マルチプル VLAN 機能搭載
- IEEE 802.1p 準拠の QoS 機能搭載
- IEEE 802.1D 準拠のスパンニングツリー機能搭載
- 最大 8K の MAC アドレスを登録可能

運用・管理

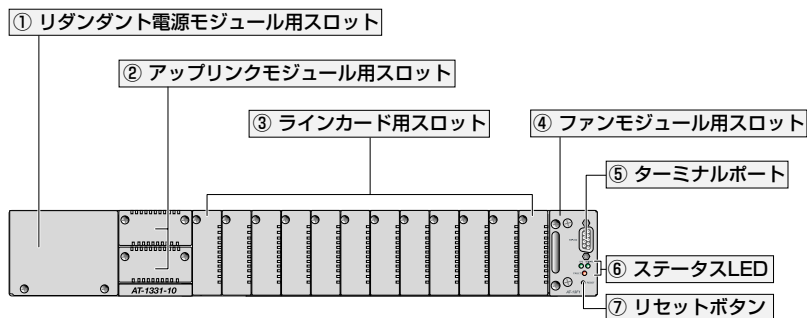
- 本体宛 IP フィルター機能搭載
- DHCP クライアント機能搭載
- ログ機能搭載 (RAM 上、および syslog サーバーへの出力が可能)
- RS-232 接続 (Xmodem)、および TFTP/FTP を使用したネットワーク経由でファームウェアや設定ファイルのダウンロード/アップロードが可能

オプション(別売)

- ポートの拡張が可能
 - AT-13A1 100M 1 心 SMF ラインカード (15km)
 - AT-13A3 100M 1 心 SMF ラインカード (40km)
 - AT-13A7 100M 2 心 SMF ラインカード (40km)
 - AT-13C2 1000BASE-SX アップリンクモジュール
 - AT-13C3 100BASE-TX/1000BASE-T アップリンクモジュール
 - AT-13C4 1000BASE-LX アップリンクモジュール
- 電源の冗長構成が可能
 - AT-13E1-10 リダンダント電源モジュール (AC100-240V、AT-1331-10 用)
 - AT-13E1-80 リダンダント電源モジュール (DC-48V、AT-1331-80 用)
- 故障時に交換可能
 - AT-13F1 スペアファンモジュール
- 電源ケーブルの抜けを防止
 - AT-RTNR-01 電源ケーブル抜け防止金具 (AT-1331-10 に対応)
- 宅側メディアコンバータースイッチ
 - AT-13G1 AT-1311 用スプライシングボックス
 - AT-1311 スタンドアロン型 100M 1 心 SMF メディアコンバータースイッチ (15km)
 - AT-1313 スタンドアロン型 100M 1 心 SMF メディアコンバータースイッチ (40km)
 - AT-1317 スタンドアロン型 100M 2 心 SMF メディアコンバータースイッチ (40km)

1.3 各部の名称と働き

前面[AT-1331-10/80 共通]



① リダンダント電源(RPS)モジュール用スロット

リダンダント電源モジュール(AT-13E1-10/80)を装着するためのスロットです。

参照 83ページ「リダンダント電源モジュール(AT-13E1-10/80)の装着」およびリダンダント電源モジュール(AT-13E1-10/80)に付属のマニュアル

② アップリンクモジュール用スロット

アップリンクモジュール(AT-13C3など)を装着するためのスロットです。

最大2個のモジュールを装着することができます。画面に表示されるポート番号は上段Aが25、Bが26、下段Aが27、Bが28となります。

参照 80ページ「アップリンクモジュールの装着」およびアップリンクモジュール(AT-13C3など)に付属のマニュアル

③ ラインカード用スロット

ラインカード(AT-13A1など)を装着するためのスロットです。最大12枚のラインカードを装着することができます。画面に表示されるポート番号は上段下段の順に左から1~24となります。例えば、最左端のスロットにモジュールを装着すると、上段がポート1下段がポート2となります。

参照 78ページ「ラインカードの装着」およびラインカード(AT-13A1など)に付属のマニュアル

④ ファンモジュール用スロット

ファンモジュール(AT-13F1)を装着するためのスロットです。

参照 84ページ「スペアファンモジュール(AT-13F1)の装着」またはファンモジュール(AT-13F1)に付属のマニュアル

1.3 各部の名称と働き

⑤ ターミナルポート(RS-232)

RS-232ケーブルで、コンソールターミナルを接続するためのポート(9ピンメス、DCE仕様)です。

ケーブルは、RS-232ストレートケーブルを別途ご用意ください。

 95 ページ「ケーブル仕様」

⑥ ステータスLED

本製品全体の状態を表示します。

○ FAULT


本製品に異常が発生すると、点灯します。また、本製品起動時のセルフテスト中と稼働時のフラッシュROM書き込み中に、点滅します。

○ RPS

リダンダント電源モジュール(AT-13E1-10/80)から電源が供給されているときに、点灯します。リダンダント電源モジュールから電源が供給されていないときに、消灯します。

○ MAIN-PS


本製品の内蔵電源から電源が供給されているときに、点灯します。本製品の内蔵電源から電源が供給されていないときに、消灯します。

 RPSとMAIN-PSの両方のLEDが点灯している場合は、本製品がリダンダント電源モジュールと本製品の両方の電源供給で動作していることを示します。

⑦ リセットボタン

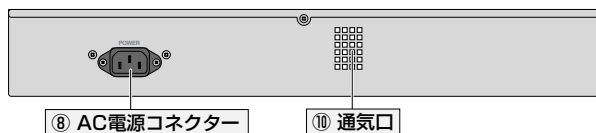
本製品を再起動するためのボタンです。

先の細い棒などで押すと、本製品はハードウェア的にリセットされます。

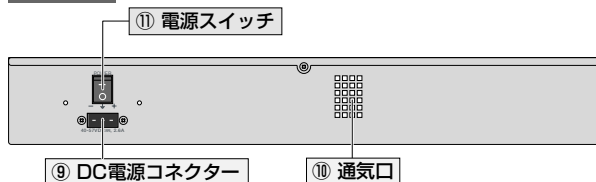
 鋭利なもの(縫い針など)や通電性のある物で、リセットボタンを押さないでください。

背面[上図 AT-1331-10、下図 AT-1331-80]

AT-1331-10



AT-1331-80




⑧ AC 電源コネクタ

AC 電源ケーブルを接続するための差込口です。

⑨ DC 電源コネクタ

DC電源ケーブルを接続するための差込口です。AT-1331-80には、電源ケーブルは同梱されておりませんので、別途ご用意ください。

 96 ページ「電源ケーブル(AT-1331-80用)」

⑩ 通気口

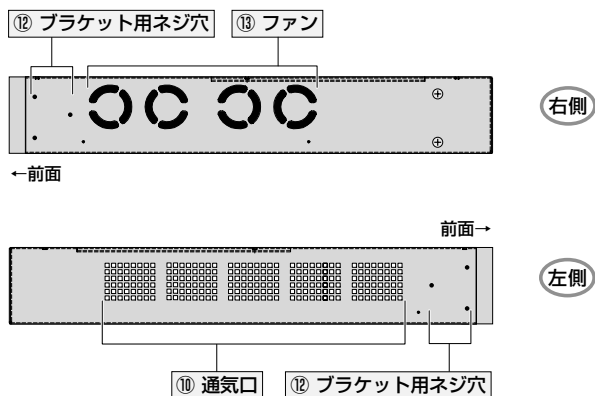
換気によって、本製品内部の熱を逃がすための穴です。

⑪ 電源スイッチ

本製品の電源を投入、切断するためのスイッチです。「-」側に押すと電源が入り、「○」側に押すと電源が切れます。

1.3 各部の名称と働き

側面[AT-1331-10/80 共通]



⑫ ブラケット用ネジ穴

同梱の 19 インチラック用ブラケットを取り付けるためのネジ穴です。

参照 22 ページ「19 インチラックへの取り付け」

⑬ ファン

空気の循環をよくして、熱を逃がすためのファンです。

⑩ 通気口

換気によって、本製品内部の熱を逃がすための穴です。

! ファンや通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

2

設置と接続

この章では、本製品の設置方法と機器の接続について説明しています。

2.1 設置

設置するときの注意

本製品の設置や保守を始める前に、必ず4ページの「安全のために」をよくお読みください。

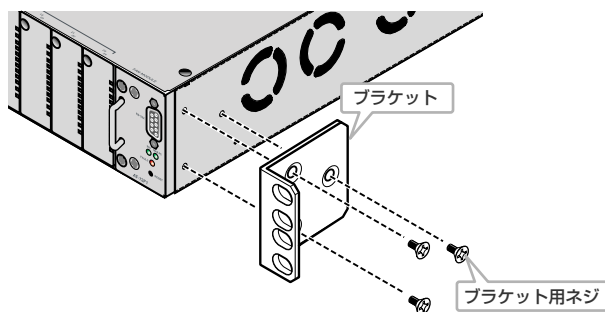
設置については、次の点にご注意ください。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような配置はさけてください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。
- 傾いた場所や不安定な場所に設置しないでください。
- 本体の上に物を置かないでください。
- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 本製品は屋外では使用しないでください。
- コネクターの端子にさわらないでください。静電気を帯びた手(体)でコネクターの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります。

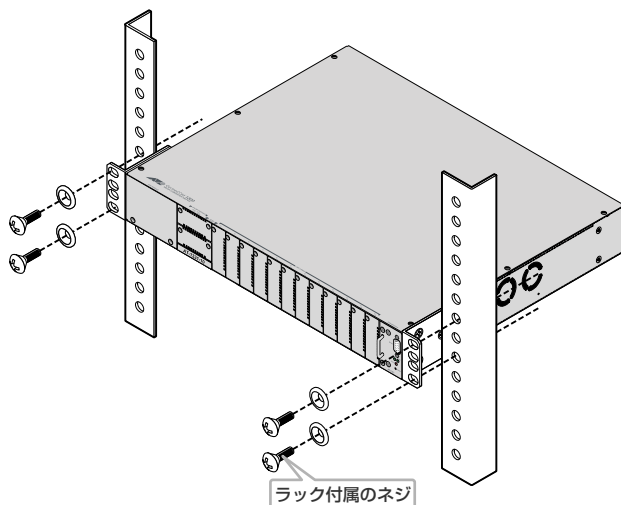
19 インチラックへの取り付け

同梱の19 インチラックマウントキットを使用して、EIA規格の19 インチラックに取り付けることができます。19 インチラックに取り付けるには、次のようにします。

- 1 本製品に同梱のブラケット用ネジを用いてブラケットを取り付けてください。



- 2 ラックに付属のネジを用いて 19 インチラックに取り付けてください。



- !** ブラケットおよびブラケット用ネジは必ず同梱のものを使用し、19インチラックに適切なネジで確実に固定してください。
固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

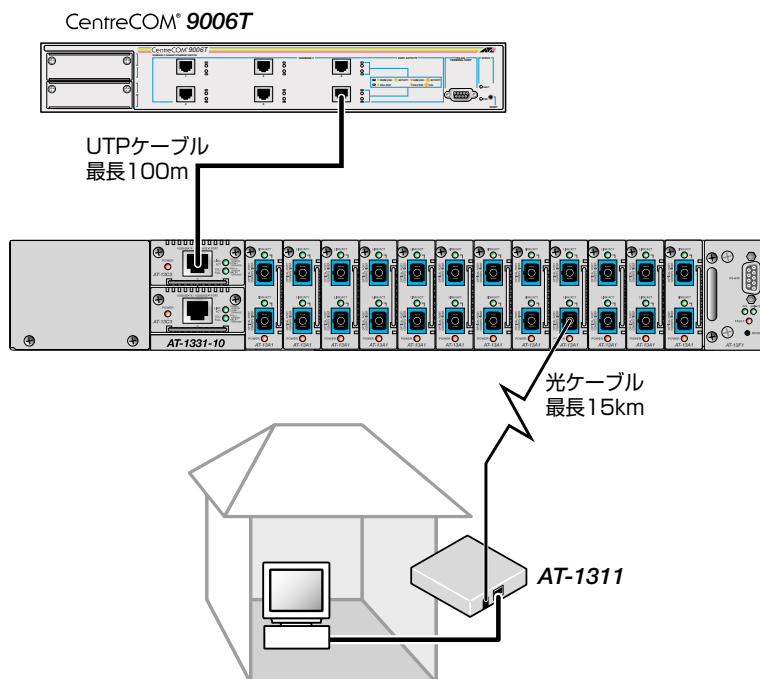
- i** 本製品にアップリンクモジュール(AT-13C3 など)、ラインカード(AT-13A1 など)、リダンダント電源モジュール(AT-13E1-10/80)、スベアファンモジュール(AT-13F1)を装着する際には、78 ページ「本製品へのモジュール装着方法」をご参照ください。また、製品に添付されているマニュアルも併せてご参照ください。

2.2 接 続

ネットワーク機器を接続する

本製品の接続例を下図に示します。この例では、AT-1331-10にAT-13C3(100BASE-TX/1000BASE-Tアップリンクモジュール)、AT-13A1(100M 1心SMFラインカード)を装着し、AT-13C3とCentreCOM 9006T(レイヤー2ギガビット・インテリジェント・スイッチ)、AT-13A1とAT-1311を接続した場合を示しています。

詳しくは、接続する各製品に付属のマニュアルをご参照ください。



コンソールターミナルを接続する

コンソールターミナルを使用して本製品にログインする場合は、本製品（標準装着のAT-13F1）前面ターミナルポートとコンソールターミナルのRS-232コネクタをRS-232ストレートケーブルで接続します。

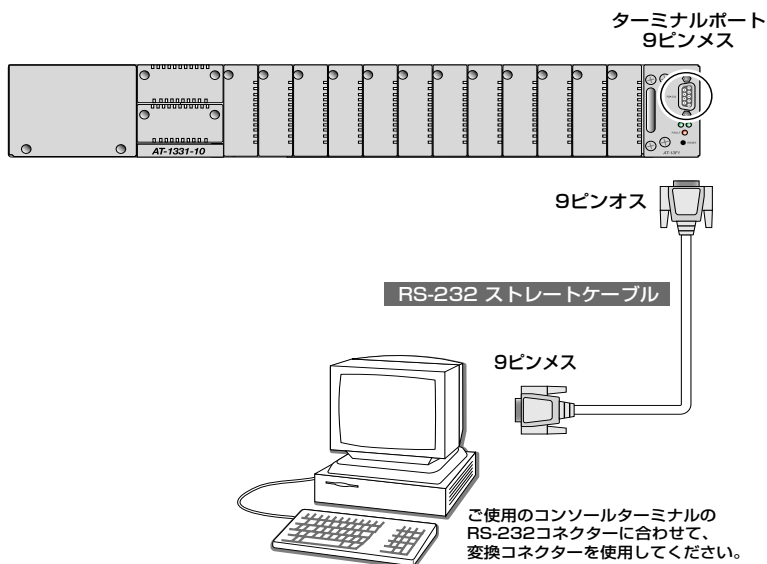
コンソールターミナル

コンソールターミナルには、ご使用のコンピューター上で通信ソフトウェアのエミュレーション機能を使用しVT100端末をエミュレートするか、または非同期のRS-232インターフェースを持つVT100 互換端末のご使用をお勧めします。

i 通信ソフトウェアの設定については、31 ページ「コンソールターミナルを設定する」で説明します。

ケーブル

ケーブルはRS-232ストレートケーブル（9ピン オスー9ピン メス）を使用します。接続する機器に合わせて、別途変換コネクタを用意してください。



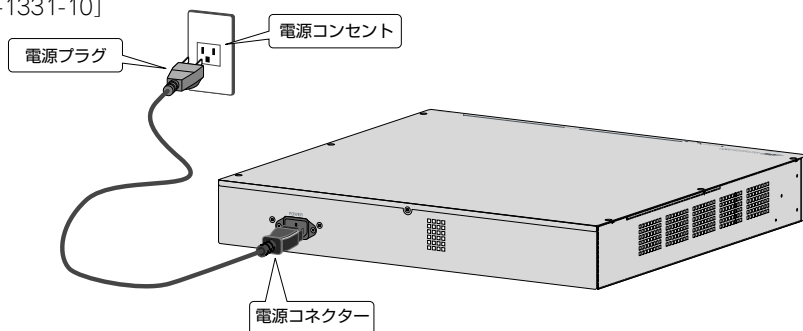
2.2 接 続

電源ケーブルを接続する

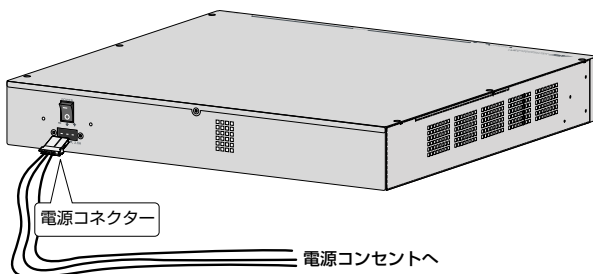
AT-1331-10の場合は、電源プラグを電源コンセントに差すと、自動的に電源が投入されます。また、AT-1331-80の場合は、電源ケーブルを本製品に接続し、電源スイッチを「-」側に押すと電源が投入されます。

- 1 電源ケーブルの電源コネクタを本製品背面の電源コネクタに接続します。
- 2 電源ケーブルの電源プラグを電源コンセントに接続します。
- 3 電源が入ると、本製品(標準装着のAT-13F1)前面ステータスLEDのMAIN-PS LEDが緑に点灯します。


[AT-1331-10]




[AT-1331-80]





AT-1331-10の電源を切る場合は、電源プラグを電源コンセントから抜きます。


 AT-1331-10の場合、電源プラグを電源コンセントに接続したまま電源コネクタを抜かないでください。AT-1331-80の場合は、スイッチを入れたまま電源ケーブルを抜かないでください。感電事故を引き起こす恐れがあります。

 AT-1331-10をご使用の場合は、必ず、AC100-120V、50/60Hzの電源電圧で、同梱の電源ケーブルを使用してください。AT-1331-80をご使用の場合は、指定のケーブルをご使用ください。

また、指定された電源電圧以外で使用しないでください。不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

 AT-1331-80用の電源ケーブルは同梱されておりませんので、別途ご用意ください。

 96 ページ「電源ケーブル(AT-1331-80用)」

 AT-1331-10には、オプション(別売)で、電源ケーブル(電源コネクタ)の抜けを防止する、電源ケーブル抜け防止金具「AT-RTNR-01」が用意されています。

3


設定の手順

この章では、本製品に設定を行うための手順と、基本的な操作方法について説明しています。

3.1 操作の流れ

STEP 1 コンソールターミナルを接続する


RS-232ストレートケーブルで、本製品（標準装備のAT-13F1）前面のターミナルポートとコンソールターミナルのRS-232コネクタを接続します。

 [25ページ「コンソールターミナルを接続する」](#)



STEP 2 コンソールターミナルを設定する

VT互換端末または通信ソフトウェアの通信設定を本製品のインターフェース仕様に合わせます。

 [31ページ「コンソールターミナルを設定する」](#)



STEP 3 ログインする

「ユーザー名」と「パスワード」を入力してログインします。
ユーザー名は「Manager」、パスワードは「friend」がデフォルトで登録されています。
ユーザー名は大文字と小文字が区別されません。パスワードは大文字と小文字が区別されます。

Login: **manager** . . . 「manager」と入力して **[Enter]** キーを押します。

Password: **friend** . . . 「friend」と入力して **[Enter]** キーを押します。

 [33ページ「ログインする」](#)




STEP 4 設定を始める

Manager% . . . プロンプトの後にコマンドを入力します。

メニュー形式で設定を行う場合は . . .

Manager% **menu** . . . 「menu」と入力して **[Enter]** キーを押します。


 [70ページ「メニュー形式で設定する」](#)



STEP 5 設定を保存する

Manager% **save** . . . 「save」と入力して **[Enter]** キーを押します。

⇒ メニューの場合は、メインメニューから [Save] を選択します。


 [45ページ「設定を保存する」](#)



STEP 6 本製品を再起動する

Manager% **restart reboot** . . . 「restart reboot」と入力して **[Enter]** キーを押します。

⇒ メニューの場合は、Administrationメニューから [Reset and restart system] を選択します。

 [48ページ「本製品を再起動する」](#)


3.2 設定の準備


コンソールターミナルを設定する

本製品に対する設定は、ローカルコンソール(標準装着のAT-13F1のターミナルポートに接続したコンソールターミナル)、またはリモートコンソール(Telnet接続したLAN上のコンピューターなど)から行います。

コンソールターミナルの通信設定を次のようにします。

項目	値
通信速度	9,600bps
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	ハードウェア
エミュレーション	VT100
BackSpace キーの使い方	Delete

 通信ソフトウェアとして、Windows 95/98/Me/2000/XP、Windows NT に標準装備のハイパーターミナルを使用する場合は、89ページ「ハイパーターミナルの設定」を参照してください。

 Telnetを使用する場合は、あらかじめローカルコンソールから本製品にIPアドレスを割り当てておく必要があります。

 51 ページ「IPアドレスを設定する」

 54 ページ「Telnetを使用する」

3.2 設定の準備


本製品を起動する

本製品を起動するには、次のようにします。

- 1 VT100互換端末の電源を入れます。または、ご使用のコンピューターの電源を入れ、ハイパーターミナルなどの通信ソフトウェアを起動します。

- 2 本製品の電源を入れます。

 26 ページ「電源ケーブルを接続する」

 本製品がすでに稼働している場合は、手順3と4に示す画面例・メッセージは表示されません。Enterキーを押すと、手順5に進みます。

- 3 Bootプログラムが起動し、セルフテスト実行後、本製品が稼働を開始します。画面には、次に示す起動画面例のように表示されます。

```
BOOT Ver3.7

RAM Test...OK

Hit any key to run diagnostics or to reload system software.....

Decompressing System Software, please wait.....
Done. Initializing System

Checking Product Type

Reading Config Data

Initializing Switching System

Initializing Ethernet Controller

Starting System ...

(press RETURN once or twice to enter User Interface)
```


- 4 「(press RETURN once or twice to enter User Interface)」と表示されたら、Enterキーを押します。

- 5 「Login:」プロンプトが表示されます。

3.3 ログインする

ログインする

本製品には、権限の異なる、MANAGER(管理者用)とUSER(一般ユーザー用)という、2つのユーザーレベルが用意されています。工場出荷時設定では、MANAGERレベルのユーザーアカウント「Manager」のみが設定されています。

 ユーザーアカウントの登録については、本製品のオペレーションマニュアルの「ユーザーの定義」を参照してください。

ここでは、この「Manager」というユーザーアカウントを使用し、ログインしてみます。ログインするには、次のようにします。

- 1 「Login: 」プロンプトが表示されたら、ユーザー名(ユーザーアカウント名)「Manager」を入力します。ユーザー名は、大文字と小文字が区別されません。

```
Login: manager Enter
```

- 2 「Password: 」プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。下の画面例では、入力したパスワード「friend」を説明のため表示していますが、画面上は、入力した文字の代わりに「*」が表示されます。

```
Password: friend Enter
```

- 3 システム情報の表示後、「Manager%」プロンプトが表示されます。本製品に対する設定や管理は、このプロンプトの後にコマンドを入力することにより行います。

```
Allied Telesis CentreCOM 1331-10 Ethernet Media Converter Switch
MAC Address 0000F4 272821, Uplink A: GBIT/T, Uplink B: GBIT/T Eth
AT-S51 Ethernet Media Converter Switch Software: Version 4.1.0J B06 021129
SIGMA command shell version 1.4
Running 54 minutes, 18 seconds
Manager%
```

ユーザー名またはパスワードが間違っている場合は、次のメッセージが表示されてログインできません。「Login: 」プロンプトに続けて、正しいユーザー名とパスワードを再度入力してください。

```
Login incorrect
Login:
```

3.3 ログインする

▶ ログインセッション数はローカル、リモート(Telnet で接続)合わせて最大5つ (Telnetのセッション数は1から4の範囲で変更可、デフォルト値は2)です。現在ログインしているユーザーは、SHOW USER コマンドで確認できます。

▶ 複数のMANAGERレベルのユーザーが、同時に本製品にログインすることはできません。また、MANAGERレベルのログインでは、ローカルからログインしたユーザーがリモートからログインしたユーザーよりも優先されます。

MANAGERレベルのユーザーがリモートからログインしている場合に、別のMANAGERレベルのユーザーがローカルからログインすると、リモートからログインしていたユーザーのログインセッションが強制的に切断されます。

ログインパスワードを変更する

ログインパスワードの変更を行います。セキュリティ確保のため、デフォルトで設定されているパスワードは変更しておくことをお勧めします。

ここでは、ユーザーアカウント「Manager」のパスワードを変更してみます。

使用コマンド

```
SET PASSWORD
```

ログインパスワードを変更するには、次のようにします。

- 1 ユーザーアカウント名「Manager」でログインします。

```
Login: manager   
Password: friend 
```

- 2 「ユーザーアカウント名%」プロンプト(ここでは「Manager%」プロンプト)が表示されたら、SET PASSWORD コマンドを実行します。

```
Manager% set password 
```

- 3 「Old password:」プロンプトに続けて、現在のパスワードを入力します。ここでは、デフォルトの「friend」を入力します。下の画面例では、入力したパスワード「friend」を説明のため表示していますが、画面上は、入力した文字の代わりに「*」が表示されます。

```
Old password: friend 
```

- 4 「New password:」プロンプトに続けて、新しいパスワードを入力します。6~20文字の文字列を半角英数字と記号で入力してください。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。ここでは例として、新しいパスワードに「openENDS」を設定してみます。


```
New password: openENDS 
```

- 5 確認のため、新しいパスワードを再度入力します。

```
Retype new password: openENDS 
```

新しいパスワードの確認に失敗すると、次のメッセージが表示されます。手順4に戻り、再度パスワードを入力しなおします。

```
Mismatch; try again, EOF to quit.  
New password:
```

 パスワードは忘れないように注意してください。

3.4 設定を始める

コマンドの入力と画面

コマンドライン編集キー

コマンドラインインターフェースでは、次の編集機能を使用することができます (VT100 互換端末が必要)。

機能	ターミナルのキー
カーソル位置の左1文字を削除	[Ctrl]+[H] / [Backspace]
カーソル位置の1文字を削除	[Ctrl]+[D]
カーソルのある行全体を削除	[Ctrl]+[U]
カーソル位置から後ろの文字列を削除	[Ctrl]+[K]
カーソルを左へ移動	[Ctrl]+[B] / [←]
カーソルを右へ移動	[Ctrl]+[F] / [→]
カーソルを行の先頭へ移動	[Ctrl]+[A] / [Home]
カーソルを入力文字列の最後へ移動	[Ctrl]+[E] / [End]
前のコマンドを表示 (履歴を戻る)	[Ctrl]+[P] / [↑]
次のコマンドを表示 (履歴を進める)	[Ctrl]+[N] / [↓]

入力可能なキーワードを表示する

本項目では、コマンドラインに入力するコマンド群、パラメーター、オプションのことを便宜的にキーワードと呼びます。

コマンドの入力途中で **[Tab]** キー (**[Ctrl]+[I]** キー) または **[スペース]** キーを押すと、次に入力可能なキーワードが一覧で表示されます。

プロンプト(ここでは、「Manager%」)の後に **[Tab]** キーを押すと、本製品のシステムで使用できるコマンドの一番目のキーワードが一覧表示されます。

Manager% [Tab]					
ACTIVATE	DELETE	ENABLE	MENU	RESET	SET
ADD	DESTROY	HELP	PING	RESTART	SHOW
CREATE	DISABLE	INACTIVATE	QUIT	SAVE	TELNET

コマンド内のキーワード1つ(特定できる範囲で省略可能)のみを入力し、続けて半角スペースを入力後 **[Tab]** キー(または、**[Ctrl]+[I]** キー)を押すと、そのキーワードに続けて入力できるキーワードの選択肢が一覧表示されます。

ここでは例として、キーワードSHOWとSHOWの一部(sh)に続けて 半角スペースを入力後 **Tab** キーを押した場合の画面例を示します。

```
Manager% show Tab
CONFIG      FDB      LOG      PORT      SNMP      TRUNK
CONSOLE     IGMP     MIRROR   RRPS      STP       USER
DEBUG      IP       MODULE   SECURITY  SYSTEM    VLAN
DIAG
Manager% sh Tab
CONFIG      FDB      LOG      PORT      SNMP      TRUNK
CONSOLE     IGMP     MIRROR   RRPS      STP       USER
DEBUG      IP       MODULE   SECURITY  SYSTEM    VLAN
DIAG
```

また、キーワードの入力途中に **Tab** キーを押すと、そこまでの入力でコマンドが特定される場合はキーワードの残りが表示され正しいキーワードが入力されます。該当するキーワードが複数ある場合は、キーワードの選択肢が一覧表示されます。特定されない場合は、何も新たには表示されません。

shを入力し **Tab** キーを押した場合は、SHOWコマンドに特定され、コマンドラインの表示が show に変わります。

```
Manager% sh Tab
```

↓ **Tab** キー入力後、表示が次のように変わる

```
Manager% show
```

sに続けて **Tab** キーを押した場合は、Sで始まるキーワードの一覧が表示されます。

```
Manager% s Tab
SHOW SET SAVE
```

3.4 設定を始める

コマンド入力時の注意

- コマンドライン(プロンプトの表示されている行)に入力可能な文字数は、スペースを含め、最大 255 文字です。
- コマンドは、大文字と小文字が区別されません。
コマンドに続く、ログインパスワードなど一部のパラメーターは、大文字と小文字が区別されます。詳しくは、「コマンドリファレンス」を参照してください。
- コマンドは省略して入力することも可能です。
コマンドを特定できる範囲内であれば、コマンド名および引数を省略して入力することも可能です。例えば、「SHOW PORT=ALL」と「SH P=A」の入力は同じ結果を得ます。
- 実行できるコマンドはユーザーレベルによって異なります。
MANAGERレベルでは、すべてのコマンドが実行できます。また、USERレベルでは、表示コマンドと一部の設定コマンドが実行できます。詳しくは「コマンドリファレンス」を参照してください。
- 設定内容はコマンドの実行直後に反映されます(DHCPクライアント機能の有効化/無効化コマンドなど、一部のコマンドを除く)。
ただし、再起動すると設定内容は消去されます。再起動後にも同じ設定で運用したい場合は、SAVE コマンドを実行し設定を保存しておきます。

メッセージ表示

コマンドを入力すると、画面に本製品からのメッセージが表示されます。メッセージには、「Info」、「Error」、「Warning」の3つのレベルがあります。「Error」レベルのメッセージが表示された場合は、入力したコマンドは実行されていません。「Warning」レベルのメッセージは、入力したコマンドによる設定がすでに有効になっている場合などに表示されません。

- Info レベルメッセージの例：コマンドが正しく実行された場合

```
Manager% set system name=sales   
Info: Operation successful
```

- Error レベルメッセージの例：パラメーターに必要な値が入力されていない場合

```
Manager% set ip ipaddress=   
Error: Value missing on parameter <IPADDRESS>.
```

- Warning レベルメッセージの例：入力したコマンドによる設定がすでに有効になっている場合

```
Manager% enable telnet   
Warning: <TELNET> is already in ENABLE state.
```

表示内容が複数ページにわたる場合

表示される内容が複数ページにわたる場合は、画面下に次のように表示されます。

```
--More-- (<space> = next page, <CR> = one line, C = continuous, Q = quit)
```

この表示に従って(または次表を参照して)目的のキーを入力することで、画面表示を更新したりメッセージの残りを表示させないようにすることができます。

機能	キーボード上のキー
次のページを表示する	<input type="text" value="スペース"/>
次の1行を表示する	<input type="text" value="Enter"/>
最後のページまで続けて表示する	<input type="text" value="C"/>
残りのページを表示せず終了する	<input type="text" value="Q"/>

3.4 設定を始める

オンラインヘルプ

本製品には、オンラインヘルプが用意されています。オンラインヘルプを使用するとコマンドの概要やコマンドの構文、パラメーターの範囲を表示させることができます。

- 次に示すように、HELPコマンドを単独で実行すると、本製品のシステムで使用できるすべてのコマンドが一覧表示されます。

```
Manager% help Enter
SHOW PORT [= {port-list | ALL}]
SHOW PORT [= {port-list | ALL}] COUNTER [REFRESH]
SHOW MODULE [PORT = {port-list | ALL}]
SHOW DIAG
SHOW LOG { [ALL] | [BEGIN=time] [END=time] [COUNT=count] | [STATUS] }
SHOW SYSTEM
SHOW CONSOLE
SHOW IP
SHOW IP FILTER [= {PING | SNMP | TELNET | TFTP | FTP | ALL}]
SHOW SNMP
SHOW SECURITY
SHOW SECURITY PORT
SHOW IGMP
SHOW TRUNK
SHOW RRPS
SHOW MIRROR
SHOW VLAN [= {vlanname | 1..4094 | ALL}]
SHOW VLAN PVID
SHOW VLAN MANAGEMENT
SHOW VLAN MODE
SHOW QOS
SHOW QOS PORT
--More-- (<space> = next page, <CR> = one line, C = continuous, Q = quit)
```

- 次の例のように、HELPに続けてコマンドを途中まで入力し実行すると、入力したキーワードを含むコマンドの構文が表示されます。このとき、コマンドが1つに特定される場合は、構文の後に説明(1文)が表示されます。

```
Manager% help set port Enter
Manager% help set port
SET PORT = {port-list | ALL} [NAME = port-name]
[VLAN = {vlanname | 1..4094}]
Sets port(s) configuration.
```

コマンドの表記

本書、オペレーションマニュアル(CD-ROM)、およびオンラインヘルプでは、コマンド入力を次に示す表記規則に従って記載しています。

コマンドの構文は、コマンド名、パラメーター、オプションを、スペースで区切って並べた構造になっています。

例えば、ADD VLAN コマンドの構文は次のようになります。

```
ADD VLAN={vlanname|1..4094} PORT={port-list|ALL} [FRAME={TAGGED|UNTAGGED}]
```

大文字	大文字の部分はコマンド名、パラメーター、オプションを示します。入力時には大文字と小文字が区別されません。
小文字	小文字の部分はユーザが任意に指定する値を示します。コマンド入力時に、環境に応じて指定します。大文字と小文字が区別されるものもありますので、各パラメーターの説明を参照してください。
1..4094	1から4094の範囲の値で、ユーザが任意に指定できることを示します。
{ }	{ }で囲まれた部分は、複数の選択肢からどれか1つを指定することを示します。選択肢の各項目は縦棒()で区切られます。例えば、FRAME={TAGGED UNTAGGED}は、FRAMEパラメーターの値としてTAGGEDかUNTAGGEDのどちらか一方だけを指定することを示しています。
[]	[]で囲まれた部分は、省略可能であることを示します。1つのコマンドに複数の[]がある場合は、そのなかのどれか1つを指定しないとコマンドが成立しないものもあります。

3.4 設定を始める

コマンド一覧

ポート設定コマンド / モジュール機能コマンド

SHOW PORT	ポートステータスの表示
SET PORT	ポートの設定
ENABLE/DISABLE PORT	ポートの有効化・無効化
ENABLE/DISABLE PORT FLOW	フローコントロール機能の有効化・無効化
ENABLE/DISABLE PORT FORWARDING	ブロードキャストパケットフィルタリング機能の有効化・無効化
SHOW MODULE	本製品と宅側機器に関する情報を表示
SET MODULE	エンハンスドミッシングリンクの設定
ACTIVATE/INACTIVATE MODULE	モジュールスロットを抜き差し準備状態・抜き差し準備状態解除に設定
ACTIVATE MODULE LOOPBACK	ループバックテストの実行
ACTIVATE MODULE MANAGEMENT	保守パケット取得の要求実行

イーサネット統計情報コマンド

SHOW PORT COUNTER	イーサネット統計情報の表示
RESET PORT COUNTER	カウンターのリセット

システム管理コマンド

TELNET	指定したシステムへの Telnet 接続
PING	指定したシステムへの Ping テスト
SHOW LOG	ログの表示、ログ設定情報の表示
ENABLE/DISABLE LOG	ログの開始・停止
SET LOG	syslog の設定
RESET LOG	ログの消去
SHOW DIAG	システム診断テストの結果表示
RESTART REBOOT	システムのリセット

システム設定コマンド

SHOW SYSTEM	システム情報の表示
SET SYSTEM	システム名、エージングタイム、設置場所、管理者の設定
SHOW USER	ユーザー情報の表示
ADD/DELETE USER	ユーザーの追加・削除
SET PASSWORD	ログインパスワードの変更
SET USER	登録ユーザーの設定変更
ENABLE/DISABLE TELNET	Telnet サーバー機能の有効・無効
SET TELNET TCPPOORT	Telnet の TCP ポート番号の設定
SET TELNET LIMIT	Telnet の最大セッション数の変更

ENABLE/DISABLE TFTP	TFTP サーバー機能の有効・無効
SET LOADER PASSWORD	TFTPによるソフトウェアPut/Get時のパスワードの設定
SET CONFIG PASSWORD	TFTPによる設定ファイルPut/Get時のパスワードの設定
ENABLE/DISABLE FTP	FTP サーバー機能の有効・無効
SHOW CONSOLE	コンソールターミナル情報の表示
ENABLE/DISABLE CONSOLE	ローカルコンソールの有効・無効
SET CONSOLE	ターミナルポートの設定
SHOW IP	IPパラメーター情報の表示
SET IP	IPパラメーターの設定
ENABLE/DISABLE DHCP	DHCPクライアント機能の有効・無効
SHOW IP FILTER	IPフィルタ情報の表示
SET IP FILTER	IPフィルタエントリの変更
ENABLE/DISABLE IP FILTER	IPフィルタ機能の有効・無効
ADD/DELETE IP FILTER	IPフィルタエントリの追加・削除
SHOW SNMP	SNMP情報の表示
SET SNMP	SNMPの設定
ENABLE/DISABLE SNMP	SNMPリクエストの有効・無効
SHOW SECURITY	ポートセキュリティ(システム全体)情報の表示
SHOW SECURITY PORT	ポートセキュリティ(ポート別)情報の表示
SET SECURITY	ポートセキュリティ(システム全体)の設定
SET SECURITY PORT	ポートセキュリティ(ポート別)の設定
SHOW IGMP	IGMPスヌーピング情報の表示
SET IGMP AGINGTIMER	IGMPスヌーピング エージングタイムの設定
ENABLE/DISABLE IGMP	IGMPスヌーピング機能の有効・無効
SHOW TRUNK	ポートトランキング情報の表示
SET TRUNK	トランクグループの作成
SHOW RRPS	RRPスヌーピングポートの表示
SET RRPS PORT	RRPスヌーピングポートの設定

ポートミラーリングコマンド

SHOW MIRROR	ポートミラーリング情報の表示
SET MIRROR	ソースポート・ミラーポートの設定
ENABLE/DISABLE MIRROR	ポートミラーリング機能の有効・無効

3.4 設定を始める

バーチャルLAN/QoS コマンド

SHOW VLAN	VLAN 名、VID、所属ポートの表示
SHOW VLAN PVID	PortVID 情報の表示
SHOW VLAN MANAGEMENT	マネージメントポートの表示
SHOW VLAN MODE	現在の VLAN モードの表示
CREATE/DESTROY VLAN	VLAN の作成・消去
ADD/DELETE VLAN PORT	所属ポートの追加・削除
SET VLAN VLAN	VLAN 名、VID の変更
SET VLAN PORT FRAME	ポートのタグ付き・タグ無し設定変更
SET VLAN PORT PVID	PortVID の変更
SET VLAN MANAGEMENT	マネージメントポートの変更
SET VLAN MODE	VLAN モードの変更
ENABLE/DISABLE VLAN INGRESSFILTER PORT	インGRESSフィルターの有効・無効
SHOW QOS	タグプライオリティー情報の表示
SHOW QOS PORT	ポートプライオリティー情報の表示
SET QOS	タグプライオリティーの設定
SET QOS PORT	ポートプライオリティーの設定

ブリッジ(スパンニングツリー)コマンド

SHOW STP	スパンニングツリー情報の表示
SHOW STP PORT	ポートスパンニングツリー情報の表示
SET STP	スパンニングツリーの設定
SET STP PORT	ポートスパンニングツリーの設定
ENABLE/DISABLE STP	スパンニングツリー機能の有効・無効

MAC アドレステーブルコマンド

SHOW FDB	MAC アドレステーブルの表示
RESET FDB	MAC アドレステーブルの消去
ADD/DELETE FDB DESTADDRESS	スタティック MAC アドレスの追加・削除

ユーティリティコマンド

SHOW CONFIG	設定情報の表示
SHOW DEBUG	SHOW LOG ALL/SHOW DIAG/SHOW CONFIGの実行
SAVE	設定の保存
QUIT	ログアウト
HELP	コマンドの表示
MENU	メニュー画面に切り替え

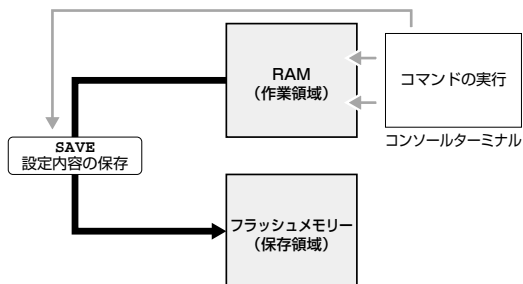
3.5 設定を保存する

設定を保存する

入力したコマンドは実行直後に反映されますが、設定内容はRAM(揮発性メモリー)上にあるため、本製品を再起動すると消去されます。

このため、電源ケーブルを抜き差しする、リセットボタンを押す、RESTART REBOOTコマンドを実行して本製品を再起動する際、またAT-1331-80の場合は電源スイッチを切る際には、ご注意ください。

再起動後にも同じ設定で本製品を稼働させたい場合は、次に示す手順で、SAVEコマンドを実行して設定内容をフラッシュメモリー(不揮発性メモリー)に保存しておきます。



使用コマンド

SAVE

権限

Manager

設定を保存するには、次のようにします。

- 1 SAVE コマンドを実行します。

```
Manager% save [Enter]
```

- 2 次のメッセージが表示されたら、**Y**キーを押します。
Nキーを押すと、設定の保存は中止されます。

```
Do save configuration now ? (Yes or No): Y
```

3.5 設定を保存する

- 3 設定がフラッシュメモリーに書き込まれると、次のメッセージが表示され、コマンドプロンプトに戻ります。

```
Waiting for Flash writes... done.
```

```
Manager%
```

SAVEコマンドを実行したときに、保存すべき設定変更がないと、次のような警告のメッセージが表示されます。この場合、フラッシュメモリーへの書き込みは行われません。

```
Warning: Configuration is not updated.
```

設定内容を確認する

SHOW CONFIGコマンドで、現在の設定内容を表示します。オプションを指定すると、表示する機能を限定できます。設定ファイル(config.txt)の内容と同様に、先頭に#がついたコメント行と設定内容(一連の設定コマンド)が表示されます。

使用コマンド

```
SHOW CONFIG [ALL] [FUNC=function]
```

権限

Manager

パラメーター

- ALL : この引数を指定すると、デフォルトを含めたすべての設定内容を表示します。指定しない場合は、デフォルト設定から変更された項目のみを表示します(各機能のタイトルは全項目表示されます)。
- FUNC : 設定内容を表示する機能を指定します。
機能(function)には、PORT、MODULE、SYSTEM、LOG、CONSOLE、IP、IPFILTER、SNMP、SECURITY、IGMP、TRUNK、RRPS、VLAN、FDB、USER、STP、ALLが指定できます。複数の機能を指定する場合は、「SYSTEM,IP,PORT」のようにカンマを使用して指定します。ALLを指定した場合は、「SHOW CONFIG」を実行したときの表示内容と同じになります。

次の画面例では、FUNCにIPを指定してSHOW CONFIGコマンドを実行した場合を示しています。

```
Manager% show config func=ip Enter
##
## kanashio Configuration.
##
## Copyright (c) 2002, Allied Telesis K.K.
## All Rights Reserved.
##
#
# IP Address Configuration
#
SET IP IPADDRESS=192.168.1.1
SET IP MASK=255.255.255.0
SET IP GATEWAY=192.168.1.32
ENABLE DHCP
```



設定ファイルの本製品へのアップロード・ダウンロードについては、58ページの「ファイルをアップロードする・ダウンロードする」をご参照ください。

3.5 設定を保存する

本製品を再起動する

設定変更を行った後は、本製品を再起動します(ポートミラーリング設定を除く)。

使用コマンド

```
RESTART REBOOT
```

権限

```
Manager
```

本製品をコマンドラインから再起動するには、次のようにします。

- 1 RESTART REBOOT コマンドを実行します。

```
Manager% restart reboot 
```

- 2 設定変更後にSAVE コマンドを実行して設定を保存していない場合は、ここで次のメッセージが表示されます。設定を保存する場合は、キーを押してください。

```
Do save configuration now ? (Yes or No): 
```

- 3 システムを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、キーを押します。

```
Do reboot system now ? (Yes or No): 
```

- 4 「(press RETURN once or twice to enter User Interface)」と表示されたら、再起動は完了です。キーを押してください。

```
(press RETURN once or twice to enter User Interface)
```

- 5 「Login:」プロンプトが表示されます。

ログアウト時に設定を保存する

QUIT コマンドを実行して本製品からログアウトするときにも、変更した設定を保存することができます。

使用コマンド

QUIT

権限

Manager、User

QUIT コマンドを入力して本製品からログアウトするには、次のようにします。

- 1 QUIT コマンドを実行します。

```
Manager% quit 
```

- 2 ログアウトするときに設定の変更が保存されていないと、次のメッセージが表示されます。キーを押して、設定の変更を保存します。

```
Do save configuration now ? (Yes or No): Yes
```

- 3 次のメッセージが表示され、セッションが終了します。

```
Waiting for Flash writes... done.
```

```
Quit
```

```
Good Bye
```

- 4 キーを押して「Login:」プロンプトを表示させ、再度ログインします。

- 5 RESTART REBOOT コマンドを実行し、本製品を再起動します。

i▶ 本製品再起動の詳しい手順は、48ページ「本製品を再起動する」をご参照ください。

- 6 「(press RETURN once or twice to enter User Interface)」と表示されたら、再起動は完了です。コンソールターミナル(通信ソフトウェア)を終了します。

3.5 設定を保存する

- ▶ 最後に保存してから設定が何も変更されていない場合に QUIT コマンドを実行すると、次のメッセージが表示され、セッションが終了します。設定を保存するかを確認するメッセージは表示されません。

```
Quit  
  
Good Bye
```

- ▶ セキュリティのため、コンソールターミナル(通信ソフトウェア)を終了する前に、必ず QUIT コマンドでログアウトしてください。

3.6 基本の設定と操作

ここでは、本製品の基本的な設定と操作について説明します。詳細については、オペレーションマニュアル(CD-ROM)を参照してください。

IPアドレスを設定する

IPアドレスの設定は、コマンドラインやメニューから手動で行う、またはネットワーク上のDHCPサーバーを利用して行うことができます。

手動でIPアドレスを設定する

使用コマンド

```
SET IP [IPADDRESS=ipadd]
      [MASK=ipadd]
```

```
SHOW IP
```

権限

```
SET IP      Manager
SHOW IP     Manager, User
```

パラメーター

IPADDRESS : IPアドレス。X.X.X.Xの形式で、Xに0～255の値を半角数字で入力します。デフォルトではNullに設定されています。Nullに戻す場合は0.0.0.0を指定します。

MASK : サブネットマスク。X.X.X.Xの形式で、Xに0～255の値を半角数字で入力します。デフォルトではNullに設定されます。Nullに戻す場合は0.0.0.0を指定します。

手動でIPアドレスを設定するには、次のようにします。

1 本製品にIPアドレスを設定します。


ここでは、IPアドレスに「192.168.1.10」、サブネットマスクに「255.255.255.0」を設定すると仮定します。

```
Manager% set ip ipaddress=192.168.1.10 mask=255.255.255.0 
```

2 SHOW IP コマンドを実行し、設定を確認します。


```
Manager% show ip 
IP Address Information
-----
IP address ..... 192.168.1.10
Subnet mask ..... 255.255.255.0
Gateway address ..... Null
Domain Name Server ..... Null
Default Domain Name ..... Null (not configured)
Manager address 1 ..... Null
Manager address 2 ..... Null
Manager address 3 ..... Null
Manager address 4 ..... Null
DHCP function ..... Disabled
-----
```

3.6 基本の設定と操作

 リモート(Telnet)からユーザーがログインしている場合、IPアドレスの変更は、リモートログインしているユーザーがすべてログアウトしたときに有効になります。

DHCPでIPアドレスを自動設定する

本製品のDHCPクライアント機能を使用すると、ネットワーク上のDHCPサーバーを利用して、本製品にIPアドレスを自動設定することができます。DHCPクライアント機能はデフォルトでは無効(Disabled)に設定されています。

 SET IP コマンドで本製品に割り当てたIPアドレスは、ENABLE DHCP コマンドでDHCPクライアント機能を有効化しても、変更されません。DHCPクライアント機能を使用して、本製品にIPアドレスを割り当てる場合は、IPADDRESSに「0.0.0.0」を指定してSET IPコマンドを実行し、IPアドレスをNull(0.0.0.0)に戻してください。

```
set ip ipaddress=0.0.0.0 mask=0.0.0.0
```

 DHCPクライアント機能の設定変更(有効化/無効化)は、再起動後に有効になります。

使用コマンド

```
ENABLE DHCP  
SHOW IP
```

権限

```
ENABLE DHCP    Manager  
SHOW IP        Manager, User
```

DHCP 機能を利用してIPアドレスを自動設定するには、次のようにします。

- 1 SHOW IP コマンドでIPアドレスがNullであることを確認します。すでに手動でIPアドレスが割り当てられている場合は、次のコマンドを実行しNullに戻します。

```
Manager% set ip ipaddress=0.0.0.0 mask=0.0.0.0 [Enter]
```

- 2 DHCPクライアント機能を有効にします。

```
Manager% enable dhcp [Enter]
```

- 3 設定を保存するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、キーを押します。

```
Do save configuration now ? (Yes or No): Yes
```

- 4 システムを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、**Y**キーを押します。


```
Do reboot system now ? (Yes or No): Yes
```

- 5 再起動後、DHCP サーバーから自動的に IP アドレスが割り当てられます。本製品の DHCP クライアント機能を有効に設定すると、IP アドレス、サブネットマスクに加え、DNS サーバーアドレスとデフォルトドメイン名の情報も取得し自動設定することができます。

自動設定された内容は、SHOW IP コマンドを実行すると表示されます。

```
Manager% show ip 

IP Address Information
-----
IP address ..... 192.168.1.200 (From DHCP)
Subnet mask ..... 255.255.255.0
Gateway address ..... 192.168.1.32
Domain Name Server ..... 192.168.1.1
Default Domain Name ..... ultra.allied-teleasis.co.jp
Manager address 1 ..... Null
Manager address 2 ..... Null
Manager address 3 ..... Null
Manager address 4 ..... Null
DHCP function ..... Enabled
-----
```

-  ご使用の環境によっては、起動直後に SHOW IP コマンドを実行しても、DHCP クライアント機能による設定変更が反映されていない場合があります。設定変更を確認するには、時間をおいて、SHOW IP コマンドを再実行します。

3.6 基本の設定と操作

Telnet を使用する

Telnet でログインする

本製品のTelnetサーバー機能は、デフォルトでは有効(Enabled)に設定されています。本製品にIPアドレスを設定すると、Telnetクライアントからネットワーク経由で本製品にログインできます。

Telnetクライアントに設定するパラメーターは、次のとおりです。


項目	値
エミュレーション	VT100
BackSpace キーの使い方	Delete

Telnetクライアントから本製品にログインするには、次のようにします。

- 1 ネットワーク上のコンピューターから、本製品に対してtelnetコマンドを実行します。(あらかじめpingコマンドなどを実行し本製品が通信可能な状態が確認しておきます。)ここでは、本製品のIPアドレスには「192.168.1.10」が割り当てられているものとします。

```
telnet 192.168.1.10 [Enter]
```

- 2 Telnetセッションが確立すると、「Login:」プロンプトが表示されます。

 Windows 95/98/Me/2000/XP、Windows NTの稼働しているコンピューター上でTelnetを使用する場合は、92ページ「Telnetクライアントの設定」を参照してください。

Telnet サーバー機能を無効にする

Telnet 接続を拒否する場合は、DISABLE TELNET コマンドで Telnet サーバー機能を無効に設定します。

使用コマンド


```
DISABLE TELNET
```

権限

```
Manager
```

Telnet サーバー機能を無効に設定するには、コマンドラインから DISABLE TELNET コマンドを実行します。

```
Manager% disable telnet Enter
```

 リモート(Telnet)からユーザーがログインしている場合、Telnet サーバー機能は、リモートログインしているユーザーがすべてログアウトしたときに無効になります。

Telnet サーバーの TCP ポート番号を変更する

Telnet サーバーのリスニング TCP ポート番号を変更することができます。デフォルトでは 23 番ポートが設定されています。

使用コマンド

```
SET TELNET [TCPPOrt=2..32767]
```

権限

```
Manager
```

パラメーター

TCPPOrt : Telnet サーバーの TCP ポート番号。2~32767 の値を半角数字で入力します。デフォルトでは 23 が設定されています。

Telnet サーバーのリスニング TCP ポート番号を変更するには、コマンドラインから DISABLE TELNET コマンドを実行します。下の画面例では、リスニング TCP ポート番号に 120 を指定する場合を示しています。

```
Manager% set telnet tcpport=120 Enter
```

3.6 基本の設定と操作

Telnetの最大セッション数を変更する

本製品には、Telnetクライアントからネットワーク経由で、同時に複数のユーザーがログインすることができます。Telnetの最大セッション数は、1～4の範囲で変更することができます。デフォルトは2です。

使用コマンド

```
SET TELNET LIMIT=1..4
```

権限

```
Manager
```

パラメーター

LIMIT : Telnetの最大セッション数。1～4の値を半角数字で入力します。デフォルト値は2です。

```
Manager% set telnet limit=4 
```

他のシステムにTelnet接続する

ローカルコンソールから本製品にログインしている場合は、他のシステムに対してTelnet接続することができます。IPアドレスの代わりに、システム名やMACアドレスを指定して接続することもできます。ここでは、接続先のシステムにIPアドレス「192.168.1.20」を仮定し説明します。

使用コマンド

```
TELNET { [IPADDRESS=] ipadd | [MACADDRESS=] macadd | [HOSTNAME=] host }  
[TCPPOINT=tcppoint-number]
```

権限

```
Manager
```

パラメーター

IPADDRESS : IPアドレス。X.X.X.Xの形式で、Xに0～255の値を半角数字で入力します。
MACADDRESS : MACアドレス。XXXXXXXXXXXXの形式で指定します。
HOSTNAME : ホスト名(システム名)。半角英数字で指定します。
TCPPOINT : 接続先のTCPポート番号。半角数字で指定します。指定がない場合はポート23へ接続します。

他のシステムに Telnet 接続するには、次のようにします。

- 1 引数に IP アドレスを付けて TELNET コマンドを実行します。

```
Manager% telnet 192.168.1.20 
```

次のメッセージが表示されます。

```
Connecting to 192.168.1.20 ...
```

- 2 Telnet セッションが確立すると、「Login:」プロンプトが表示されます。

Telnet セッションを終了するには、QUIT コマンドを実行します。


```
Manager% quit 
```

```
Quit
```

```
Good Bye
```

```
Disconnected
```


```
Manager%
```

 リモートコンソール(Telnet 接続)からログインしている場合は、さらに他のコンピューターなどに Telnet 接続をすることはできません。

3.6 基本の設定と操作


ファイルをアップロード・ダウンロードする


本製品は、次に示す3種類のファイル(ファイル名固定)を、Xmodem でダウンロード、TFTP やFTP を使用してアップロード・ダウンロードすることができます。

 ファイル名を変更すると、アップロード・ダウンロードができなくなりますので、ご注意ください。また、拡張子.txtの付いたファイルはテキスト形式、.img はバイナリー形式で保存されています。FTP/TFTPを利用してファイルを転送する際には、ご注意ください。

○ ファームウェアのイメージファイル
ファイル名「ats51j.img」
ダウンロードパスワード「ATS51」(TFTP クライアントのリモートファイル名)

○ 設定ファイル
ファイル名「config.txt」/「config.img」
ダウンロードパスワード「config」(TFTP クライアントのリモートファイル名)


 「config.txt」はテキスト形式(行ごとにコマンドを記述)のため編集できますが、「config.img」はバイナリー形式で保存されているため編集できません。設定ファイルのアップロードの際にはご注意ください。

 設定ファイルのアップロード・ダウンロードは、本製品の設定内容の確認・保存と一括変更に役立ちます。設定ファイル内に書き込んだ設定変更は、本製品の再起動後に有効になります。

○ ログファイル (FTP get コマンドにのみ対応)
ファイル名「syslog.txt」

Xmodem でファイルをダウンロードする

本製品に、Xmodemでファイルをダウンロードします。ご使用のターミナルまたは通信ソフトウェアがファイル転送機能(Xmodem)をサポートしていない場合は、この機能を利用できませんのでご注意ください。

 ファイルのダウンロード中は、本体からRS-232ケーブルを抜かないでください。

Xmodemでファイルをダウンロードするには、次のようにします。

- 1 電源ケーブルを抜き差しする(AT-1331-10)または電源スイッチをオン/オフする(AT-1331-80)、リセットボタンを押す、またはRESTART REBOOTコマンドを実行して、本製品を再起動します。

- 2 次の画面例に示すように、「Hit any key to run diagnostics or to reload system software. . .」と表示されている間に任意のキーを押します。

```
BOOT Ver3.7

RAM Test...OK

Hit any key to run diagnostics or to reload system software.....
```

- 3 Bootメニュー(ATI Diagnostics)が表示されたら、「->」プロンプトに続けて`Enter`キーを入力し、[X: XMODEM download updated System Software] オプションを選択します。

```
                ATI Diagnostics

Model: AT-MBS-10, Revision Level:
MAC Address: 0000F4272821/0000F4272821

Select an option:


  R: RAM Tests
  U: UART Tests
  A: All of the above Tests
  C: Continuous Tests
> S: Single Test

  O: Other System Tests
  B: BOOT System Software
  X: XMODEM download updated System Software

  D: Restore all configuration data to factory defaults

  M: Memory Byte/Word/Dword
  P: Port I/O
  Z: Change Terminal Speed

->
```

-  このメニュー項目は、ローカルコンソール(RS-232接続)からログインしている場合にのみ表示されます。

- 4 リセットシーケンスが開始され、ダウンロードの準備完了のメッセージが表示されます。

```
The System is now ready for download. Please start your XMODEM
transfer.
CCCCC
```

3.6 基本の設定と操作

5 コンピューター(コンソール)から、ファイルを転送します。
プロトコルタイプには「Xmodem」を選択して通信ソフトウェアのファイル送信を実行します(ファイル転送の手順については、使用している通信ソフトウェアのマニュアルなどをお読みください)。

6 ファイル転送が正常に終了すると、次のメッセージが表示されて、システムは自動的に再起動します。

```
XMODEM transfer has successfully completed. Now writing to Flash  
PROM.
```


7 「(press RETURN once or twice to enter User Interface)」と表示されたら、**[Enter]**キーを押します。

8 「Login:」プロンプトが表示されます。

FTPでアップロード・ダウンロードする

本製品のFTPサーバー機能を使用して、ファイルをアップロード・ダウンロードします。以下の説明は次のような仮定で行います。

- 本製品(FTPサーバー)のIPアドレス「192.168.1.10」
- ユーザー名「Manager」・ログインパスワード「friend」
- FTPクライアント(ご使用のコンピューター)側のディレクトリー「C:¥temp」

 本製品のFTPサーバー起動には、約1分間かかります。このため、本製品の起動直後には、FTPサーバー機能を利用できません。

FTPでアップロード・ダウンロードするには、次のようにします。

- 1 SHOW SYSTEM コマンドを実行し、本製品のFTP サーバー機能が有効(Enabled)に設定されていることを確認します。デフォルトでは有効(Enabled)に設定されています。無効に設定されている場合は、ENABLE FTP コマンドを実行して有効に設定します。

```
Manager% show system 

System Information
-----
System name ..... kanashio
MAC Aging Time ..... 300 (seconds)
Location ..... Null (not configured)
Contact ..... Null (not configured)

TELNET
Status ..... Enabled
TCP port ..... 23/tcp
Session Limit ..... 2

TFTP
Status ..... Enabled
Download Password ..... ATS51
Config Download Password ..... config

FTP
Status ..... Enabled
-----
```

- 2 FTPクライアント側のコンピューター上でpingコマンドを実行し、本製品とFTPクライアント側の通信が可能な状態にあることを確認します。通信が可能な状態にない場合は、設定を見直し、通信が可能な状態にします。

```
C:\temp>ping 192.168.1.10 
```

- 3 FTPクライアント側でftpコマンドを実行し、本製品のFTPサーバーに接続します。

```
C:\temp>ftp 192.168.1.10 
```

- 4 ユーザー名とパスワードを入力して本製品にログインします。

```
Connected to 192.168.1.10.
220 "kanashio" FTP server ready
User (192.168.1.10:(none)): manager 
331 Password required for manager
Password: friend(表示されません) 
230 User logged in.
```

3.6 基本の設定と操作

- 5 ファイルをアップロード(本製品からFTPクライアントへ)する場合は「get」を、ダウンロード(FTPクライアントから本製品へ)する場合は「put」を実行します。ここでは、イメージファイルを本製品にダウンロードする場合の例を示します。画面例のように、まずbinコマンドを実行してFTPの転送モードをバイナリーに変更します。その後ファイル名(ats51j.img)を指定してputコマンドを実行します。


```
ftp> bin   
200 Type set to I.  
ftp> put ats51j.img 
```

- 6 ファイルの転送が行われます。次に示すような画面が表示されます。

```
200 PORT command successful.  
150 Opening BINARY mode data connection for 'ATS51J.IMG'.  
226 Transfer Complete.  
ftp: 687672 bytes sent in 5.22Seconds 131.74Kbytes/sec.
```


- 7 転送が終了したら、プロンプトの後に、「bye」を入力し`Enter`キーを押します。これで、FTPクライアントの接続がFTPサーバーから切断されます。

```
ftp> bye 
```

-  FTPクライアントを明示的に切断しないと、FTPサーバー側のタイムアウト機能によりタイムアウト時間(5分)経過後に、本製品は強制的にFTPクライアントの接続を切断します。強制的に切断された場合、ダウンロードしたファイルは廃棄されません(手順8には進みません)。

- 8 ダウンロードの場合、次の画面例が表示され、ダウンロードしたファイルをフラッシュメモリーへ書き込み後、本製品が自動的に再起動します。

```
Manager%  
Please wait for FLASH writes to complete.  
This may take up to 3 minute.  
Do not reset, do not remove power.  
The system will automatically reboot.
```

-  本製品が再起動を開始するまでは、絶対に電源を切らないでください。フラッシュメモリーへの書き込み中に電源を切ると、本製品を起動できなくなる可能性があります。

TFTPでアップロード・ダウンロードする

本製品のTFTPサーバー機能を使用して、ファイルをアップロード・ダウンロードします。以下の説明は次のような仮定で行います。

- 本製品(TFTPサーバー)のIPアドレス「192.168.1.10」

TFTPでアップロード・ダウンロードするには、次のようにします。

- 1 SHOW SYSTEMコマンドを実行し、本製品のTFTPサーバー機能が有効(Enabled)に設定されているかを確認します。デフォルトでは有効(Enabled)に設定されていません。

```
Manager% show system Enter

System Information
-----
System name ..... kanashio
MAC Aging Time ..... 300 (seconds)
Location ..... Null (not configured)
Contact ..... Null (not configured)

TELNET
Status ..... Enabled
TCP port ..... 23/tcp
Session Limit ..... 2

TFTP
Status ..... Enabled
Download Password ..... ATS51
Config Download Password ..... config

FTP
Status ..... Enabled
-----
```

- 2 FTPクライアント側のコンピューターからpingコマンドを実行して、本製品とローカルホスト間の通信が可能な状態にあることを確認します。通信可能な状態にない場合は、設定を見直し、通信が可能な状態にします。

```
C:\temp>ping 192.168.1.10 Enter
```

3.6 基本の設定と操作

- 3** ファイルをアップロード(本製品から TFTP クライアントへ)する場合は「get」を、ダウンロード(TFTP クライアントから本製品へ)する場合は「put」を実行します。リモートファイル名には、本製品にあらかじめ設定されているダウンロードパスワードを指定します(ダウンロードパスワードは大文字と小文字が区別されます)。また、ファームウェアのイメージファイルの場合は、転送モードにバイナリー(binary)を指定します。

設定ファイルを C:\temp にアップロードする場合は、次のコマンドを実行します。次に、Windows 2000 の tftp コマンドの実行例を示します。

```
C:\temp>tftp 192.168.1.10 get config config.txt 
```

設定ファイルを本製品へダウンロードする場合は、次のコマンドを実行します。


```
C:\temp>tftp 192.168.1.10 put config.txt config 
```

- 4** ファイルの転送が行われます。

```
Transfer successful: 1188 bytes in 1 second, 1188 bytes/s
```

- 5** ダウンロードの場合、ダウンロードしたファイルをフラッシュメモリへ書き込み後、本製品が自動的に再起動します。

```
Manager%  
Please wait for FLASH writes to complete.  
This may take up to 3 minute.  
Do not reset, do not remove power.  
The system will automatically reboot.
```

-  本製品が再起動を開始するまでは、絶対に電源を切らないでください。フラッシュメモリへの書き込み中に電源を切ると、本製品を起動できなくなる可能性があります。

システム名を設定する

システム名(MIB II オブジェクト sysName)を設定すると、複数のシステムを管理する場合に、各システムの識別がしやすくなり便利です。

使用コマンド

```
SET SYSTEM [NAME=system-name]
SHOW SYSTEM
```

権限

```
SET SYSTEM      Manager
SHOW SYSTEM     Manager, User
```

パラメーター

NAME : システム名。1～20文字の文字列を半角英数字およびアンダーバー()で指定します。空白を含む場合は文字列全体をダブルクォート(“)で囲んで指定します。大文字と小文字が区別され、指定した文字列がそのまま表示に反映されます。デフォルトではNullに設定されています。Nullに戻す場合はNAMEパラメーターに値を指定せずにコマンドを実行します。

システム名を設定するには、次のようにします。

- 1 SET SYSTEM コマンドを実行します。ここでは、システム名に「WhiteTale」を設定すると仮定します。

```
Manager% set system name=WhiteTale Enter
```

- 2 SHOW SYSTEM コマンドで、設定を確認します。

```
Manager% show system Enter

System Information
-----
System name ..... WhiteTale
MAC Aging Time ..... 300 (seconds)
Location ..... Null (not configured)
Contact ..... Null (not configured)

TELNET
  Status ..... Enabled
  TCP port ..... 23/tcp

TFTP
  Status ..... Enabled
  Download Password ..... ATS51
  Config Download Password ..... config

FTP
  Status ..... Enabled
-----
```

3.6 基本の設定と操作

SNMPによる管理のための設定をする

本製品のSNMP機能は常に有効(Enabled)に設定されているため、IPアドレスとサブネットマスクを設定すれば、SNMP マネージャーによる管理・設定が可能です。

使用コマンド

```
SET SNMP [GETCOMMUNITY=get-community-string]
          [SETCOMMUNITY=set-community-string]
          [TRAPCOMMUNITY=trap-community-string]

SET IP [MANAGER1=ipadd]
       [MANAGER2=ipadd]
       [MANAGER3=ipadd]
       [MANAGER4=ipadd]

SHOW SNMP
```

権限

```
SET SNMP      Manager
SET IP        Manager
SHOW SNMP     Manager, User
```

パラメーター

- GETCOMMUNITY : SNMPのGetに設定するコミュニティー名。1～20文字の文字列を半角英数字で入力します。コミュニティー名は大文字と小文字が区別されます。デフォルトではpublicが設定されます。
- SETCOMMUNITY : SNMPのSetに設定するコミュニティー名。1～20文字の文字列を半角英数字で入力します。コミュニティー名は大文字と小文字が区別されます。デフォルトではprivateがされます。
- TRAPCOMMUNITY : SNMPのTrapに設定するコミュニティー名。1～20文字の文字列を半角英数字で入力します。コミュニティー名は大文字と小文字が区別されます。デフォルトではpublicが設定されます。
- MANAGER1～4 : SNMPトラップ送信先ホスト(=トラップホスト)のIPアドレス。X.X.X.Xの形式で、Xに0～255の値を半角数字で入力します。デフォルトではNullが設定されます。設定をNullに戻す場合は0.0.0.0を指定します。トラップホストは最大4個まで登録できます。

本製品から SNMP トラップを送信するには、次のように設定します。

- 1 SET SNMP コマンドで SNMP コミュニティー名を設定します。
デフォルトのコミュニティー名は不正アクセスに利用される可能性が高いため、変更することをお勧めします。ここでは、Get コミュニティー名に「SwimView」、Set コミュニティー名に「SwimManager」、Trap コミュニティー名に「syslog」を仮定し説明します。

```
Manager% SET SNMP GETCOMMUNITY=SwimView SETCOMMUNITY=SwimManager
TRAPCOMMUNITY=syslog Enter
```

- 2 SET IP コマンドでトラップホストを設定します。
トラップホストを設定しないと、本製品から SNMP トラップは送信されません。ここでは、トラップホスト (MANAGER1) の IP アドレスを「192.168.1.5」と仮定します。

```
Manager% set ip manager1=192.168.1.5 Enter
```

- 3 SHOW SNMP コマンドを実行し、設定を確認します。

```
Manager% show snmp Enter

SNMP Information
-----
Manager address 1 ..... 192.168.1.5
Manager address 2 ..... Null
Manager address 3 ..... Null
Manager address 4 ..... Null

Get community string ..... public
Set community string ..... private
Trap community string ..... public

Get request ..... Enabled
Set request ..... Enabled

Cold Start ..... ALL
Change Port Link ..... ALL
Authentication Failure ..... ALL
Over-Temperature ..... ALL
Fan ..... ALL
New Root ..... ALL
Topology Change ..... ALL
Intruder Alert ..... ALL
Power Supply Outage ..... ALL
Module insertion/remove ..... ALL
Link partner status ..... ALL
Loopback test result ..... ALL
New Address ..... --
-----
```

3.6 基本の設定と操作

SNMP トラップごとに送信先ホストを設定する

トラップごとに送信先のトラップホスト (MANAGER 1 ~ 4) を設定できます。

本製品がサポートする SNMP トラップは以下の表のとおりです。表内の Cold Start から Loopback test result までのトラップは、デフォルトですべてのトラップホストに送信するように設定されています。ただし、New Address トラップは、デフォルトで送信しないように設定されています。

トラップ名	内容
Cold Start	ハードウェアリセット時に発行
Change Port Link	ポートのリンクアップ・ダウン時に発行
Authentication Failure	異なるSNMPコミュニティ名のメッセージ受信時に発行
Over-Temperature	システム内の温度異常検出時に発行
Fan	ファンの異常検出時に発行
New Root	スパニングツリーにおいて、新しいルートへの切り替わり時に発行
Topology Change	スパニングツリーにおいて、トポロジー変更の発生時に発行
Intruder Alert	ポートセキュリティにおいて、不正パケット受信時に発行
Power Supply Outage	本体とリダンダント電源モジュール (AT-13E1-10/80) の電源切り替わり時に発行
Module insertion/remove	モジュールの挿入時、取り外し時に発行
Link partner status	接続先機器の状態変更時に発行
Loopback test result	ループバックテストを行った時に発行
New Address	新しいMACアドレスの学習時に発行

使用コマンド

```
SET SNMP [GETCOMMUNITY=get-community-string]
        [SETCOMMUNITY=set-community-string]
        [TRAPCOMMUNITY=trap-community-string]
        [COLDSTART={1..4|ALL}]
        [CHANGEPORT={1..4|ALL}]
        [AUTHENTICATION={1..4|ALL}]
        [OVERTEMPERATURE={1..4|ALL}]
        [FAN={1..4|ALL}]
        [NEWROOT={1..4|ALL}]
        [TOPOLOGY={1..4|ALL}]
        [INTRUDER={1..4|ALL}]
        [POWEROUTAGE={1..4|ALL}]
        [MODULEINOUT={1..4|ALL}]
        [LINKPARTNER={1..4|ALL}]
        [LOOPBACKRESULT={1..4|ALL}]
        [NEWADDRESS={1..4|ALL}]
```

```
SHOW SNMP
```

権限

SET SNMP Manager
SHOW SNMP Manager, User

パラメーター

TRAP : トラップホスト番号 (SET IP コマンドの MANAGER1~4 パラメーターで設定)。1~4 の値を半角数字で入力します。連続する複数の番号を指定する場合は「1-3」のようにハイフンを使用します。連続しない複数の番号を指定する場合は「1,3」のようにカンマを使用します。0 (ゼロ) を指定すると該当のトラップは無効になります。COLDSTART から LOOPBACKRESULT までは、デフォルトで ALL が設定されています。NEWADDRESS は、デフォルトで ALL が設定されています。

SNMP トラップごとに送信先ホストを設定するには、次のようにします。

- 1 ポートのリンクアップ・ダウンリンク時に発行されるトラップ (CHANGEPORT) の送信先ホストを MANAGER1 と 3 に設定します。

```
Manager% set snmp changeport=1,3 Enter
```

- 2 SHOW SNMP コマンドを実行し、設定を確認します。

```
Manager% show snmp Enter

SNMP Information
-----
Manager address 1 ..... 192.168.1.5
Manager address 2 ..... 192.168.1.6
Manager address 3 ..... 192.168.1.7
Manager address 4 ..... 192.168.1.8

Get community string ..... SwimView
Set community string ..... SwimManager
Trap community string ..... syslog

Get request ..... Enabled
Set request ..... Enabled

Cold Start ..... ALL
Change Port Link ..... 1,3
Authentication Failure ..... ALL
Over-Temperature ..... ALL
Fan ..... ALL
New Root ..... ALL
Topology Change ..... ALL
Intruder Alert ..... ALL
Power Supply Outage ..... ALL
Module insertion/remove ..... ALL
Link partner status ..... ALL
Loopback test result ..... ALL
New Address ..... --
-----
```

3.6 基本の設定と操作

メニュー形式で設定する

本製品には、コマンドラインとメニュー形式の2種類のユーザーインターフェースが用意されています。ファームウェア起動後(ログイン時)の画面は、コマンドラインインターフェースが表示されていますが、MENUコマンドを実行するとメニュー画面に切り替わります。

使用コマンド

MENU

権限

Manager

ユーザーインターフェースをメニュー形式に切り替えるには、次のようにします。

- 1 MENU コマンドを実行します。

```
Manager% menu 
```

- 2 ただちにメニュー画面に切り替わり、下に示す画面が表示されます。

```
Allied Telesis CentreCOM 1331-10 Ethernet Media Converter Switch: 4.1.0J

                               Main Menu

Command line interface

Port status and configuration

Ethernet statistics

Administration

System configuration

Traffic/Port Mirroring

Virtual LANs/QoS

Bridging

MAC Address Table

Quit
```

コマンドラインインターフェースに戻るには、[Command line interface]を選択します。Ⓜキーを押し、キーを押してください。

画面の表示

現在「有効」(Enabled)に設定されている設定項目には、「>」マークがついています。選択した選択項目は、ハイライト表示されています。ハイライト表示された状態で`[Enter]`キーを押すと、選択が確定し「有効」(Enabled)に設定されます。

設定項目を選択する

選択する設定項目の頭文字(大文字と小文字の区別なし)を入力し、ハイライト表示させ、`[Enter]`キーを押します。

同じ頭文字を持つ設定項目が2つ以上ある場合は、頭文字を複数回入力するか、`[↑]`(上矢印)と`[↓]`(下矢印)の方向キーを使用して、選択する設定項目をハイライト表示させます(通信ソフトウェアによっては、方向キーが使用できない場合があります)。

ポート番号など数字の設定項目は、数字を入力してハイライト表示させ、`[Enter]`キーを押します。一桁の数字と二桁の数字がある場合は、二桁で入力します。例えば、「1」を選択する場合は「01」と入力します。

数字や名前を入力/削除する

設定項目を選択し、「->」プロンプトの後に数字や名前などを半角英数字で入力して、`[Enter]`キーを押します。

設定項目を選択したときに入力画面に移動する場合と、設定項目の入力フィールドに「->」プロンプトが表示される場合があります。

数字や名前などの文字列を削除する(Nullに設定する)場合は、「->」プロンプトの後に(現在設定されている数字や名前の上から)`[←]`キーを入力して、`[Enter]`キーを押します。

アドレスを削除する(Nullに戻す)場合は「0.0.0.0」を入力して、`[Enter]`キーを押します。

画面を移動する

前の画面に戻る場合は、画面一番下の [Return to ~ ...] を選択するか、`[Esc]`キーを押します。

表示項目が一画面に納まらない場合は、画面下に [More ...] が表示されます。次の画面を表示するには、この [More ...] を選択して、`[Enter]`キーを押します。

3.6 基本の設定と操作

設定を保存する

設定の変更を行うと、メインメニュー内の [Quit] の表示が [Quit / Save] に変わります。再起動後も同じ設定で運用したい場合は、[Save] を選択して設定内容をフラッシュメモリーに保存します。

設定を保存するには、次のようにします。

- 1 メインメニューから [Save] を選択します。
Ⓜキーを押し、**[Enter]** キーを押してください。
- 2 画面下に次のメッセージが表示されたら、**[Y]**キーを押します。
[N]キーを押すと、設定の保存は中止されます。

```
Do save configuration now? (Yes or No): Yes
```

- 3 設定がフラッシュメモリーに書き込まれると、次のメッセージが表示され、メインメニューの画面が更新されます ([Quit / Save] が [Quit] の表示に戻ります)。

```
Waiting for Flash writes... done.
```

ログアウトする

設定が終了したら、本製品からログアウトして、コンソールターミナル(通信ソフトウェアを使用)を終了します。

ログアウトするには、次のようにします。

- 1 メインメニューから [Quit] を選択します。
Ⓜキーを押し、**[Enter]**キーを押してください。
- 2 次のメッセージが表示され、セッションが終了します。

```
Quit  
Good Bye
```

ログアウトするときに設定の変更が保存されていないと、次のメッセージが表示されます。設定を保存する場合は、**[Y]**キーを押してください。

```
Warning: Configuration is updated. However, it is not saved at Flash Memory.  
Do save configuration now? (Yes or No): Yes
```


設定を工場出荷時の状態に戻す

すべての設定を、工場出荷時の状態に戻します。

工場出荷時設定に戻すには、次のようにします。

- 1 電源ケーブルを抜き差しする(AT-1331-10)または電源スイッチをオン・オフする(AT-1331-80)、リセットボタンを押す、またはRESTART REBOOTコマンドを実行して、システムを再起動します。
- 2 「Hit any key to run diagnostics or to reload system software. . .」と表示されている間に任意のキーを押して、Bootメニュー(ATI Diagnostics)を表示します。

```
ATI Diagnostics

Model: AT-MBS-10, Revision Level:
MAC Address: 0000F4272821/0000F4272821

Select an option:

R: RAM Tests
U: UART Tests
A: All of the above Tests
C: Continuous Tests
> S: Single Test

O: Other System Tests
B: BOOT System Software
X: XMODEM download updated System Software

D: Restore all configuration data to factory defaults

M: Memory Byte/Word/Dword
P: Port I/O
Z: Change Terminal Speed
->
```

- 3 「->」プロンプトに続けて回キーを押し、[D: Restore all configuration data to factory defaults] を選択します。
- 4 次のメッセージが表示されたら、回キーを押します。

```
WARNING: This will erase all current configuration data!Continue ? (Y/N)
```

3.6 基本の設定と操作

- 5 すべての設定内容が工場出荷時の状態に戻ると、再び「->」プロンプトが表示されます。「->」プロンプトに続けて`回`キーを入力し、[B: BOOT System Software] オプションを選択します。

```
All configuration data has been reset to factory default values.
```

```
->
```

- 6 Boot プログラムが起動し、セルフテスト実行後、本製品が稼働を開始します。「(press RETURN once or twice to enter User Interface)」と表示されたら、`[Enter]` キーを押します。

- 7 「Login:」プロンプトが表示されます。

 工場出荷時設定にリセット中、およびBoot中は、絶対に電源を切らないでください。

3.7 デフォルト設定

本製品のデフォルト設定(工場出荷時設定)の一覧を次に示します。

設定	デフォルト
ポート設定	
通信モード (変更不可)	Full duplex (ポート1~24) Auto negotiate (ポート25~28)
フローコントロール (ポート25~28のみ)	IEEE 802.3x PAUSE : Disabled
ブロードキャストパケットフィルタリング	Forwarding
ポート名	Null (ポート1~24) Uplink Port 1 ~4 (ポート25~28)
モジュール設定	Active (全スロット)
システム管理	
ログ	Enabled
syslogサーバーアドレス	Null
syslogファシリティコード	1 (user-level message)
システム設定	
システム名	Null
エージングタイム	300 (seconds)
設置場所 (Location)	Null
管理者 (Contact)	Null
Telnetサーバー機能	Enabled
Telnet TCPポート番号	23
Telnet最大セッション数	2
TFTPサーバー機能	Enabled
ソフトウェア ダウンロードパスワード	ATS51
設定ファイル ダウンロードパスワード	config
FTPサーバー機能	Enabled
登録ユーザー	Manager
ログインパスワード	friend
コンソールターミナル設定	8 data bits / 1 stop bit / No parity Full duplex (echo) / 9600 bps
セッションタイムアウト	5 (minutes)
ローカルコンソール	Enabled
IPアドレス	Null
サブネットマスク	Null
ゲートウェイアドレス	Null
DNSサーバー	Null
デフォルトドメイン名	Null
SNMPマネージャー (トラップホスト) 1~4	Null
DHCPクライアント機能	Disabled

3.7 デフォルト設定

設定	デフォルト
IPフィルター	Disabled
IPフィルター デフォルトアクション	EXCLUDE
Get コミュニティー名	public
Set コミュニティー名	private
Trap コミュニティー名	public
Get request	Enabled
Set request	Enabled
トラップ送信先マネージャー	SNMPマネージャー (トラップホスト) 1~4
ポートセキュリティ (モード)	Automatic
IGMPスヌーピング	Disabled
IGMPスヌーピングエージングタイム	60 (minutes)
ポートトランッキング	Null
RRPスヌーピング	Null
ポートミラーリング	Disabled
バーチャルLAN/QoS	
VLANモード	802.1Q Tag Vlan
VLAN名	Default VLAN
ポートプライオリティー	Tag Priority : Use Port Priority : Normal
プライオリティー値の設定	Normal priority 0 High priority 7
プライオリティーキューの設定	Mode 5 (High-7-4 : Normal-3-0)
マネージメントポートの所属VLAN	ID=1 (Default VLAN)
インGRESSフィルター	Enabled
ブリッジ (スパニングツリー)	
スパニングツリー	Disabled
ブリッジプライオリティー	32768
Max age time	20 (seconds)
Hello time	2 (seconds)
Forwarding delay	15 (seconds)
ポートプライオリティー	128
ポートバスコスト	10

4

付 録

この章では、CentreCOM 1300 シリーズ製品の装着方法、トラブル解決、Windows のハイパーターミナルと Telnet アプリケーションの使用方法、本製品の仕様について説明しています。

4.1 本製品へのモジュール装着方法

本製品には、16ページ「オプション(別売)」に掲載している CentreCOM 1300シリーズ製品(モジュール)を装着することができます。次に、各モジュールの装着方法を説明します。

! 故障や事故の原因となりますので、絶対に本製品およびモジュール内部の部品に手など触れないでください。

i 本製品はホットスワップ機能に対応しているため、本製品を稼働させたまま、モジュールを装着・交換することができます。各モジュールの装着・交換時に電源を切る必要はありません。

ラインカードの装着

! 目に傷害が発生する場合がありますので、光ポートや光ケーブルをのぞきこまないでください。光ケーブルを接続していないときは、必ず光ポートにダストカバーを装着してください。

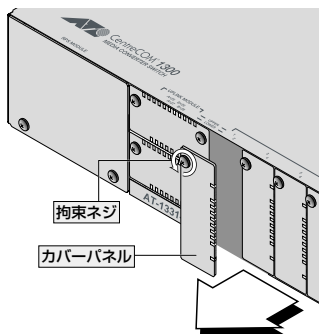
! 本製品稼働中にラインカードの抜き差しを行う場合は、必ず以下の手順に従ってください。交換手順を誤った場合は、作業終了後に本製品の再起動が必要となります。

ラインカードを装着するには、次のようにします。ここでは、AT-13A1を例にして、装着手順を説明します。

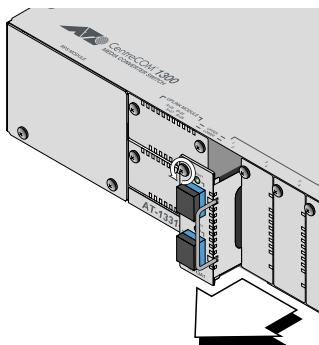
1 本製品にログインし、コマンドラインインターフェースまたはメニューから、ラインカードを取り付けるラインカード用スロットに属するポートを「Inactive(抜き差し準備状態)」に設定します。ポートがすでに「Inactive」に設定されている場合は、再設定する必要はありません。

2 ラインカードを取り付けるラインカード用スロットを準備します。

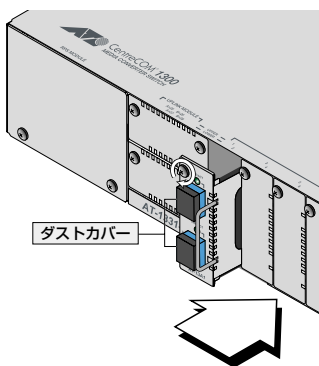
- a. 空のラインカード用スロットにラインカードを接続する場合
本製品前面のカバーパネルの拘束ネジを緩めて、カバーパネルを外します。



- b. 使用中のラインカードを新しいラインカードに交換する場合
本製品に装着されているラインカードの各光ポートに接続されている光ケーブルを取り外します。光ケーブルを取り外した光ポートには、安全のためダストカバーを取り付けてください。
拘束ネジを緩め、ハンドルを引っ張って外します。



- 3 ラインカードのボード部分をラインカードスロットのボードガイドに沿って差し込みます。ラインカード前面のパネルが本製品前面のパネルと揃う位置まで押し込み、拘束ネジを締めてください。



- 4 本製品のコマンドラインインターフェースまたはメニューから、ラインカードを取り付けたラインカード用スロットに属するポートを「Activate(抜き差し準備状態解除)」に設定します。
- 5 光ポートについているダストカバーを取り外して、光ケーブルを接続します。

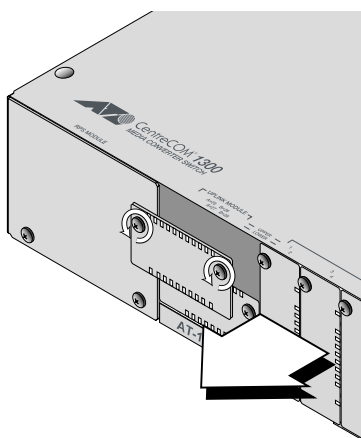
4.1 本製品へのモジュール装着方法

アップリンクモジュールの装着

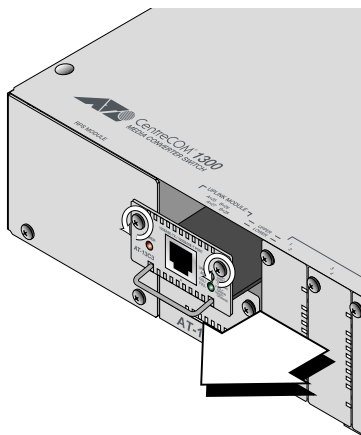
! 本製品稼働中にアップリンクモジュールの抜き差しを行う場合は、必ず以下の手順に従ってください。交換手順を誤った場合は、作業終了後に本製品の再起動が必要となります。

アップリンクモジュールを装着するには、次のようにします。ここでは、AT-13C3を例にして、装着手順を説明します。

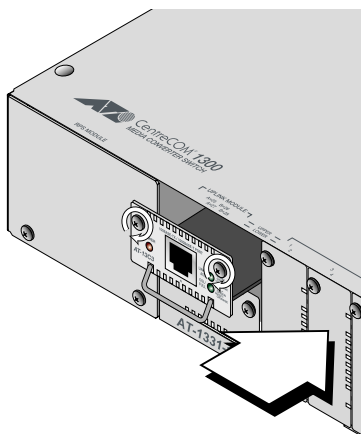
- 1 本製品にログインし、コマンドラインインターフェースまたはメニューから、アップリンクモジュールを取り付けるアップリンクモジュール用スロットに属するポートを「Inactivate(抜き差し準備状態)」に設定します。ポートがすでに「Inactive」に設定されている場合は、再設定する必要はありません。
- 2 アップリンクモジュールを取り付けるアップリンクモジュール用スロットを準備します。
 - a. 空のアップリンクモジュール用スロットにアップリンクモジュールを接続する場合本製品前面のカバーパネルの拘束ネジを緩めて、カバーパネルを外します。




- b. 使用中のアップリンクモジュールを新しいアップリンクモジュールに交換する場合、本製品に装着されているアップリンクモジュールの拘束ネジを緩め、ハンドルを引っ張って外します。



- 3 アップリンクモジュールのボード部分をアップリンクモジュール用スロットのボードガイドに沿って差し込みます。アップリンクモジュール前面のパネルが本製品前面のパネルと揃う位置まで押し込み、拘束ネジを締めてください。



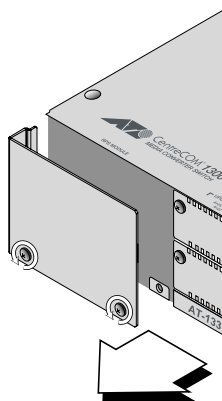
4.1 本製品へのモジュール装着方法

- 4 本製品のコマンドラインインターフェースまたはメニューから、アップリンクモジュールを取り付けたアップリンクモジュール用スロットに属するポートを「Activate(抜き差し準備状態解除)」に設定します。
 - 5 装着したアップリンクモジュールのポートに適合するメディアのケーブル(ここでは UTP ケーブル)を接続します。
-  モジュールの取り付け時に一時的な接触不良などが発生していた場合は、本製品が異常を検知し、自動的に再起動し正常な稼働を続けます。

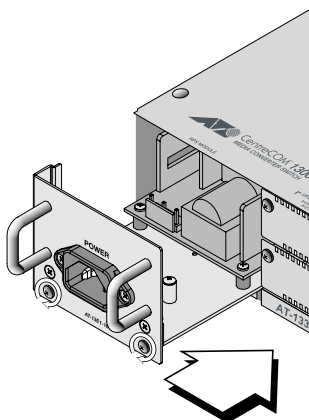
リダント電源モジュール(AT-13E1-10/80)の装着

リダント電源モジュールを装着するには、次のようにします。

- 1 本製品前面のリダント電源モジュール用スロットのカバーパネルの拘束ネジをドライバーで緩めて、カバーパネルを外してください。







- 2 リダント電源モジュールをリダント電源モジュール用スロットのボードガイドに沿って差し込みます。リダント電源モジュール前面のパネルが本製品前面のパネルと揃う位置まで押し込み、拘束ネジを締めてください。



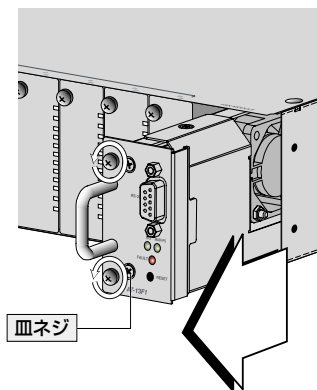
4.1 本製品へのモジュール装着方法


スペアファンモジュール(AT-13F1)の装着

-  スペアファンモジュール(AT-13F1)は本製品に装着されているファンモジュールの交換用スペアです。
-  装着されているファンモジュールのファンが故障した場合、可能な限り早めに新しいスペアファンモジュール(AT-13F1)と交換してください。
ファンモジュールのファンが2個以上故障した場合、本製品の動作に深刻なダメージをもたらす可能性があります。ファンが1個でも故障した場合には、早急に交換することを強くお勧めいたします。
-  ファン障害の確認方法については、本製品付属のオペレーションマニュアルを参照してください。
-  ファンモジュールを取り外してからスペアファンモジュールを取り付けるまでの間、本製品は冷却ファン無しで動作しています。本製品の故障を防ぐため、取り付け作業は速やかに完了するようにしてください。

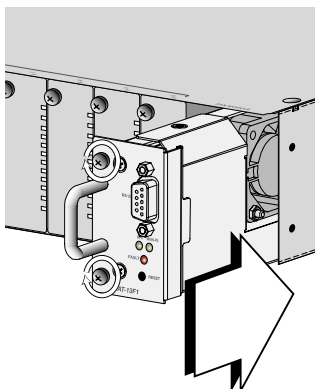
スペアファンモジュールを装着するには、次のようにします。

- 7 本製品前面のファンモジュール用スロットに装着されているファンモジュールの拘束ネジをドライバーで緩めて、故障したファンモジュールを外してください。



-  スペアファンモジュールの拘束ネジ穴右隣にある皿ネジは、スペアファンモジュールの本体と前面パネルを固定するためのものです。絶対に取り外さないでください。

- 2** スペアファンモジュールをファンモジュール用スロットのボードガイドに沿って差し込みます。スペアファンモジュール前面のパネルが本製品前面のパネルと揃う位置まで押し込み、拘束ネジを締めてください。



4.2 困ったときに

本製品を使用中になんらかのトラブルが発生したときの解決方法を紹介します。

セルフテストの結果を確認する

本製品は、セルフテスト(自己診断)機能を備えています。起動時にセルフテストを行い、本体やソフトウェアに異常が発生したときには、そのテスト結果を画面に表示し、異常の内容に応じて動作を制御します。

テスト結果に表示されるセルフテスト項目は次のとおりです。

項目	内容
Flash PROM	フラッシュPROMの状態です。Good/Failedで表示します。
RAM	RAMの状態です。Good/Failedで表示します。
Serial Interface	シリアルインターフェースの状態です。Good/Failedで表示します。
System 3.3V Power	本製品内蔵の3.3V電源モジュールの供給電圧です。Vで表示します。
System 2.5V Power	本製品内蔵の2.5V電源モジュールの供給電圧です。Vで表示します。
Main PSU	本製品の内蔵電源の状態です。On (電源オン) /Off (電源オフ) で表示します。
Redundant PSU	リダンダント電源モジュールの電源状態です。On (電源オン) /Off (電源オフ) で表示します。
Fan#1~Fan#4	ファンの回転数です。RPMで表示します。
Temperature	本製品内の温度です。℃で表示します。

LED 表示を確認する

ステータス LED

本製品全体の状態を表示します。

LED	色	状態	表示内容
FAULT	赤	点灯	システム、またはファームウェアに異常があります。
		点滅	セルフテスト実行中です。(起動時) フラッシュROMに書き込みを行っています。(稼働時) Xmodemでファイルを転送中です。
	—	消灯	システムに異常はありません。
RPS	緑	点灯	リダンダント電源モジュールから電源が供給されています。
	—	消灯	リダンダント電源モジュールから電源が供給されていません。
MAIN-PS	緑	点灯	本製品の内蔵電源から電源が供給されています。
	—	消灯	本製品の内蔵電源から電源が供給されていません。



RPS と MAIN-PS の両方の LED が点灯している場合は、本製品がリダンダント電源モジュールと本製品の両方の電源供給で動作していることを示します。

トラブル例

電源を投入したが、MAIN-PS LED が点灯しない

正しい電源ケーブルを使用していますか。

AT-1331-10をご使用の場合は、必ず、AC100-120V、50/60Hzの電源電圧で、同梱の電源ケーブルを使用してください。AT-1331-80をご使用の場合は、指定のケーブルをご使用ください。

電源ケーブルが正しく接続されていますか。

電源コンセントには、電源が供給されていますか。

コンソールターミナルに文字を入力できない

RS-232 ケーブルは正しく接続されていますか。

通信ソフトウェアを2つ以上同時に起動していませんか。

同一のCOMポートを使用する通信ソフトウェアを複数起動すると、COMポートにおいて競合が発生し、通信できない、または不安定になるなどの障害が発生します。

通信ソフトウェアの設定内容(通信条件)は正しいですか。

本製品を接続しているCOMポート名と、通信ソフトウェアで設定しているCOMポート名が一致しているかを確認してください。

また、通信速度が本製品と通信ソフトウェアで一致しているかを確認してください。本製品の通信速度はデフォルトでは9,600bpsに設定されています。

コンソールターミナルが文字化けする

通信ソフトウェアの通信速度は正しいですか。

コンソールの設定と通信ソフトウェアを調べ、同じ値が通信速度に設定されているかを確認してください。コンソールの通信速度と通信ソフトウェアの通信速度に同じ値が設定されていないと、入力文字が正しく表示されないことがあります。通信速度は、デフォルトの設定(9600bps)でご使用になることをお勧めします。

文字入力モードは英数半角モードになっていますか。

全角文字や半角カナは、入力しないでください。通常、AT互換機では **Alt** キーを押しながら **[半角/全角]** キーを押すと、入力モードを切り替えることができます。

4.2 困ったときに

ログインできない


ログインセッションの最大数を超過していませんか。

本製品のログインセッション数はローカル(コンソール)、リモート(Telnet)合わせて最大5つ(Telnetのセッション数は1~4までで変更可能。デフォルトは2つ)です。リモートから、Telnetの最大セッション数の指定より多いセッションを同時に開くことはできません。設定が終了したら必ずQUITコマンドでログアウトするようにしてください。

既に、MANAGERレベルのユーザーがログインしていませんか。

MANAGERレベルのユーザーは、本製品に同時に複数ログインすることはできません。また、MANAGERレベルのユーザーは、ローカル接続が優先されます。MANAGERレベルのユーザーがローカルログインした後に、別のMANAGERレベルのユーザーがリモートログインすることはできません。設定が終了したら必ずQUITコマンドでログアウトするようにしてください。

以上の処置をしても正常に動作しないときは、アライドテレシス サポートセンターまでご連絡ください。

 100 ページ「サポート連絡先」

4.3 ハイパーターミナルの設定

コンソールターミナルとして、Windows 95/98/Me/2000/XP、Windows NTに標準装備のハイパーターミナルを使用する例を示します。

(RS-232 ストレートケーブルは、COM1 に接続すると仮定します。)

Windows Me をご使用の場合

「ハイパーターミナル」をあらかじめインストールしておく必要があります。

「ハイパーターミナル」をインストールするには、次のようにします。

- a. [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。
- b. 次に [コントロールパネル] をクリックし、[アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。
- c. [Windows ファイル] タブをクリックし、[ファイルの種類] ボックスで [通信] をクリックします。
- d. 次に [詳細] をクリックし、[ファイルの種類] ボックスで [ハイパーターミナル] のチェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。
- e. [アプリケーションの追加と削除のプロパティ] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。

以上で「ハイパーターミナル」がインストールされます。

1 ハイパーターミナルを起動します。

Windows 95の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[ハイパーターミナル] をクリックします。次に `Hyperterm.exe` をダブルクリックします。

Windows 98の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[通信] をポイントします。次に [ハイパーターミナル] をクリックし、`Hyperterm.exe` をダブルクリックします。

Windows Me/2000/XPの場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム(すべてのプログラム)] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[通信] をポイントします。次に [ハイパーターミナル] をクリックします。

Windows NTの場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[ハイパーターミナル] をクリックします。

2 [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。[名前] ボックスで名前を入力し、[アイコン] ボックスでアイコンを選んで、[OK] をクリックします。モデムのインストールをするかどうかを問うダイアログボックスが表示された場合は、[いいえ] をクリックします。

4.3 ハイパーターミナルの設定

3 接続方法を設定します。

Windows 95の場合 - [電話番号] ダイアログボックスが表示されます。

[接続方法] ボックスで、[Com1へダイレクト] を選択して、[OK] をクリックします。

Windows 98/Me/2000の場合 - [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。

[接続方法] ボックスで、[Com1へダイレクト] を選択して、[OK] をクリックします。

Windows XPの場合 - [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。

[接続方法] ボックスで、[COM1] を選択して、[OK] をクリックします。

Windows NTの場合 - [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。

[ポートの設定] タブの [接続方法] ボックスで、[COM1] を選択して、[OK] をクリックします。

4 「COM1のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

各項目を下図のように設定して、[OK] をクリックします。

(下の画面例は Windows 98 の場合)



i 本製品ターミナルポートの通信速度はデフォルトで9600bpsに設定されていますが、コマンド(メニュー)で2400bps/4800bps/19200bpsのいずれかに変更することができます。

- 5 「XXXX-ハイパーターミナル(HyperTerminal)」といった、手順2で設定した名前でウィンドウが表示されます。
- [ファイル]メニューの [プロパティ] をクリックします。次に [設定] タブをクリックし、各項目を下図のように設定して、[OK] をクリックします。
- (次の画面例は Windows 98 の場合)




- 6 以上で、設定が終わりました。
- 表示された[XXXX-ハイパーターミナル(HyperTerminal)]ウィンドウで、**[Enter]**キーを押すと、セッションが開始され、「Login:」プロンプトが表示されます。

- !** ログインセッションを終了させる場合は、QUITコマンドを実行(メニューの場合は [Quit] を選択)してください。

4.4 Telnet クライアントの設定

本製品は Telnet サーバーを内蔵しているため、他の Telnet クライアントからネットワーク経由でログインすることができます。

ここでは、Windows 95/98/Me/2000/XP、Windows NT の Telnet クライアントの設定方法を説明します。

 **Telnetを使用する場合は、あらかじめコンソールから本製品にIPアドレスを割り当てておく必要があります。**

 **参照** 51 ページ「IP アドレスを設定する」

7 ネットワークに合わせて TCP/IP プロトコルの環境設定を行います。

Windows 95 の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。
[ネットワークの設定] タブをクリックし、[現在のネットワーク構成] ボックスで [TCP/IP] をクリックします。次に [プロパティ] をクリックして、設定を行います。

Windows 98/Me の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。
[ネットワークの設定] タブをクリックし、[現在のネットワークコンポーネント] ボックスで、[TCP/IP -> (ご使用のアダプター)] をクリックします。次に [プロパティ] をクリックして、設定を行います。

Windows 2000 の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックします。次に [ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
[インターネットプロトコル(TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックして、設定を行います。

Windows XP の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をポイントします。次に [ネットワークとインターネット接続] アイコンをクリックし、[ネットワーク接続] アイコンをクリックします。次に [ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
[インターネットプロトコル(TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックして、設定を行います。

Windows NT の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。
[プロトコル] タブをクリックし、[ネットワークプロトコル] ボックスで [TCP/IP プロトコル] をクリックします。次に [プロパティ] をクリックして、設定を行います。

各製品に添付されているマニュアルをご覧になり、IP アドレスなどを正しく設定してください。

2 Telnet クライアントを起動します。

Telnet クライアントは、Windows 95/98/Me、Windows NT の場合 Windows アプリケーション、Windows 2000/XP の場合 コマンドラインアプリケーションになります。

Windows 95/98/Me/NT の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。[名前] ボックスで「TELNET」と入力して、[OK] をクリックします。

Windows 2000/XP の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。[名前] ボックスで「TELNET」と入力して、[OK] をクリックします。[名前] ボックスで「TELNET 192.168.200.1」のように、TELNET に続けて本製品の IP アドレスを指定することもできます。

3 ターミナルの設定を行います。

Windows 95/98/Me・Windows NT の場合 - [ターミナル] メニューの [基本設定(設定)] をクリックします。次に [エミュレーション] で [VT-100/ANSI] をクリックし、[OK] をクリックします。



Windows 2000/XP の場合 - 次のコマンドを入力して、**[Enter]** キーを押します。xにはANSIまたはVT100を指定します。

```
Microsoft Telnet> SET TERM x
```

4 本製品の Telnet サーバーに接続します。

Windows 95/98/Me・Windows NT の場合 - [接続] メニューの [リモートシステム] をクリックします。次に [ホスト名] ボックスで、本製品の IP アドレスを入力し、[接続] をクリックします。



Windows 2000/XP の場合 - 次のコマンドを入力して、**[Enter]** キーを押します。OPEN に続けて

4.4 Telnet クライアントの設定

本製品のIPアドレスを指定します。

```
Microsoft Telnet> OPEN 192.168.200.1
```

- 5** 以上で、設定が終わりました。
[Enter]キーを押すと、セッションが開始され、「Login:」プロンプトが表示されます。

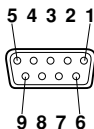
4.5 仕様

ここでは、本製品に関する詳細な情報を必要とする方を対象に、本製品の動作条件や、コネクタのピンアサインなどを説明します。

ケーブル仕様

RS-232 インターフェース

D-Sub 9ピン(メス)タイプのコネクタ(DCE仕様)を使用しています。



RS-232 DCE	信号名 (JIS規格)	信号内容
1	NOT USED	未使用
2	TXD (TD)	送信データ
3	RXD (RD)	受信データ
4	DSR (DR)	データセットレディ
5	SG (SG)	信号用接地
6	DTR (ER)	データ端末レディ
7	CTS (CS)	送信可
8	RTS (RS)	送信要求
9	NOT USED	未使用

4.5 仕様

電源ケーブル(AT-1331-80用)

AT-1331-80にDC電源を供給するための電源ケーブルは同梱されておりません。以下の仕様に適合した電源ケーブルを用意してください。

DC電源コネクタ仕様

AT-1331-80のDC電源コネクタ	
	1-178802-3

DC電源ケーブルのコネクタ

適合ハウジング		
		1-178288-3
適合コンタクト * ()はバラ品		
線材	AWG16-20	175196-3(175218-3)
	AWG14-16	917484-3(917511-3)
コネクタメーカー		
AMP		

ピンアサイン

ピン番号	出力
1	-48V
2	FG
3	0V

本製品の仕様

	AT-1331-10	AT-1331-80
準拠規格		
	IEEE802.3u	100BASE-FX (PMD を除く) (AT-13A1/AT-13A3/AT-13A7)
	IEEE802.3a	100BASE-TX(AT-13C3) 1000BASE-LX(AT-13C4) 1000BASE-SX(AT-13C2)
	IEEE802.3ab	1000BASE-T(AT-13C3)
	IEEE802.3x	Flow Control
	IEEE802.3D	Spanning Tree
	IEEE802.3Q	Vlan tagging
	IEEE802.3p	Class of Service, priority protocol
スイッチング方式		
	ストア&フォワード	
電源部		
定格入力電圧	AC100-240V	DC-48V
入力電圧範囲	AC90-264V	DC-40.5 ~ -57V
定格周波数	50/60Hz	-
定格入力電流	1.1A	2.6A
最大入力電流 (実測値)	0.99A	2.1A
平均消費電力	79W (最大 88W)	76W (最大 85W)
平均発熱量	280kJ/h (最大 320kJ/h)	270kJ/h (最大 310kJ/h)
環境条件		
動作時温度	0 ~ 40℃	
動作時湿度	80%以下 (ただし、結露なきこと)	
保管時温度	-20 ~ 60℃	
保管時湿度	95%以下 (ただし、結露なきこと)	
外形寸法 (突起部含まず)		
	440(W) × 407(D) × 66(H)mm	
質量		
	6.6kg	6.4kg
MAC アドレス登録数		
	8K (最大)	
メモリー容量		
パケットバッファ容量	720KByte(240KByte × 3chip)	
適合規格		
安全規格	UL60950、CSA-C22.2 No.60950	
EMI 規格	VCCI クラス A (AT-13A1、AT-13C3、AT-13F1、AT-13E1-10 装着状態にて取得)	
サポートする MIB		
MIB II(RFC1213)		
イーサネット MIB(RFC1643)		
ブリッジ MIB(RFC1493)		
RMON MIB(RFC1757[1,2,3,9 グループ])		
インターフェース拡張グループ MIB(RFC1573)		
プライベート MIB		

5

保証とユーザーサポート

この章では、本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調査依頼書のご記入方法について説明します。

5.1 保証とユーザーサポート

保証

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)については、弊社は、その責を一切負わないこととします。

ユーザーサポート

本体の故障などのユーザーサポートは、「製品保証書」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。FAXでご連絡いただく場合は、巻末の「調査依頼書(AT-1331-10/80)」をコピーしたものに必要事項をご記入のうえ、下記サポート先にFAXしてください。

記入内容の詳細については、次ページ「調査依頼書のご記入にあたって」を参照してください。

サポート連絡先

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

Tel: ☎ 0120-860-772

祝・祭日を除く月～金曜日 9:00～12:00
13:00～18:00

Fax: ☎ 0120-860-662

年中無休 24時間受付

5.2 調査依頼書のご記入にあたって

本依頼書は、障害の原因をできるだけ早く見つけるためにご記入いただくものです。ご提供いただく情報が不十分な場合には、原因究明に時間がかかったり、最悪の場合には、問題が解決できないこともあります。

迅速に問題の解決を行うためにも、弊社担当者がお客様の環境を理解できるよう、以下の点にそってご記入ください。

記入用紙に書ききれない場合は、プリントアウトなどを別途添付してください。

なお、状況によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

使用しているハードウェア・ファームウェアについて

- シリアル番号(S/N)、リビジョン(Rev)を調査依頼書に記入してください。シリアル番号、リビジョンは、製品に同梱されている(AT-1331-10/80、およびAT-13F1の底面に貼付されている)シリアル番号シールに記入されています。

どちらの製品のシリアル番号シールかは、下図のようにシリアル番号の頭6桁で識別してください。

(AT-1331-10の例)



(AT-1331-80の例)



(AT-13F1の例)



- ファームウェアバージョンを記入してください。ファームウェアバージョンは、ログイン後またはSHOW DIAGコマンドで表示されるシステム情報の「Version」の項で確認できます。
- オプション(別売)のモジュールを使用している場合は、使用しているモジュール名をチェックしてください。

お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかをできるだけ具体的に(再現できるように)記入してください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを添付してください。

5.2 調査依頼書のご記入にあたって

ネットワーク構成について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

調査依頼書(AT-1331-10/80、AT-13F1)

年 月 日

一般事項

1. 御社名:

部署名:

ご担当者名:

ご連絡先住所:〒

TEL: ()

FAX: ()

2. 購入先:

TEL: ()

購入先担当者:

購入年月日:

ハードウェアとネットワーク構成

1. シリアル番号(S/N)、リビジョン(Rev)、ファームウェアバージョン、オプションの有無

製品名: AT-1331-10・AT-1331-80(ご使用の製品名を○で囲んでください)



S/N _____ Rev _____

製品名: AT-13F1



S/N _____ Rev _____

ファームウェアバージョン: Version

モジュール: AT-13A1 AT-13A3 AT-13A7 AT-13C2 AT-13C3

AT-13C4 AT-13E1-10 AT-13E1-80 AT-13F1

2. お問い合わせ内容

別紙あり

別紙なし

設置中に起こっている障害

設置後、運用中に起こっている障害

3. ネットワーク構成図

別紙あり

別紙なし

簡単な図で結構ですからご記入をお願いします。

